

令和3年度 第2次菊川市総合計画進捗状況報告書

政策評価シート

菊川市

目次	基本目標1 子どもがいきいき育つまち 【子育て・教育】	1
	政策1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	1
	政策2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	2
	政策3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	3
	政策4 子どもの「生きる力」を育つまちづくり	4
	政策5 人を育み、若者を育てるまちづくり	5
	基本目標2 健康で元気に暮らせるまち 【保健・福祉・医療・社会教育】	6
	政策1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	6
	政策2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	7
	政策3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	8
	政策4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	9
	政策5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	10
	政策6 生涯にわたり学べるまちづくり	11
	政策7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	12
	政策8 スポーツが盛んなまちづくり	13
	基本目標3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち 【産業】	14
	政策1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	14
	政策2 活力と魅力のある茶のまちづくり	15
	政策3 商工業が活気あるまちづくり	16
	政策4 人が訪れるまちづくり	17
	政策5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	18
	基本目標4 快適な環境で安心して暮らせるまち 【防災・環境・社会資本整備】	19
	政策1 防災力を高めるまちづくり	19
	政策2 交通事故・犯罪のないまちづくり	20
	政策3 消防力を高めるまちづくり	21
	政策4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	22
	政策5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	23
	政策6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	24
	基本目標5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち【コミュニティ・自助・共助・公助】	25
	政策1 市民と行政との協働によるまちづくり	25
	政策2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	26
	政策3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	27
	政策4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	28

政策評価シート

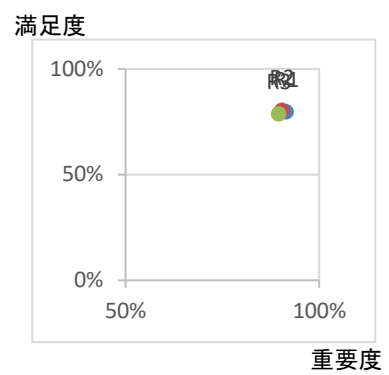
対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち																作成部署
R3	政策	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり																こども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	5	16										
コスト評価	事業費と割合(千円)								予算額比較(千円)									
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度								
	政策事業費(予算)		3,084,603	3,325,242	3,071,491	政策費増減額			240,639	△ 253,751								
	政策費/全体費					比較			108%	92%								
	政策事業費(決算)		3,103,983	4,037,643		一般財源増減額			△ 703,904	789,538								
政策費/全体費					比較			21%	516%									
コスト分析と課題	待機児童対策や子育て環境の充実のため、国費や県費を有効に活用するとともに、利用者ニーズや社会情勢に合わせ、事業を見直していく必要がある。 このほか、新型コロナウイルス感染症の子育て世帯への臨時特別給付金による影響が大きく増額となった。																	

総合計画											行政評価
1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	B
		H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
「子育てしやすいまち」と思う市民の割合	%	80.2	85.0	79.6	80.4	78.7	82.9	95.0%	現未	B	
関連する施策											
幼稚園に行くことを楽しみにしている園児の割合	%	99.2	100.0	99.5	99.6	100.0	99.6	100.4%	S	B	
関連する施策											
幼児施設入所待機児童数	人	1	0	0	0	0	0	100.0%	S	B	
関連する施策											
子育て支援センター利用者数	人	62,520	67,700	49,930	29,734	27,422	65,398	41.9%	現未	E	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	幼児施設の入所待機児童数は4年連続「国定義務待機児童数0人」となったものの、すべての保護者のニーズに答えられていない状況であり、引き続き保育ニーズに応じた幼児施設の整備を進める必要がある。 また、児童館・子育て支援センターは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため8月18日から9月30日まで休館し、開館後も入場者数や時間を制限し開館しているため利用者数は激減している。 保護者の就労形態の多様化や子育て環境が変化するなか、安心して子育てできるよう、子育て支援策の充実に努める必要がある。										

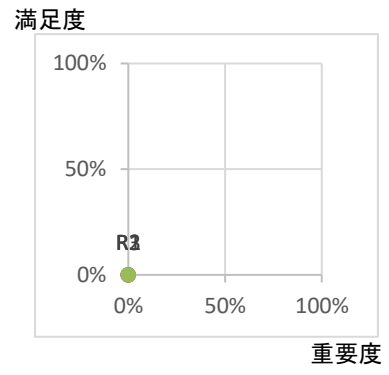
関連施策										
施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度 拡充化○ 縮減化△			
		成果1	成果2	判定評価	R5の方向性 コスト	改善				
1 教育・保育サービスの充実に取り組みます	こども政策課	S		A	拡充	拡充	①			
2 幼児教育・保育の質の向上を目指します	こども政策課	現未		A	維持	維持	①			
3 安心できる子育て環境を整備します	こども政策課、子育て応援課	S		A	拡充	拡充	①			
4 子育て世代を応援します	こども政策課、子育て応援課	A		C	維持	維持	⑤			

市民アンケート結果

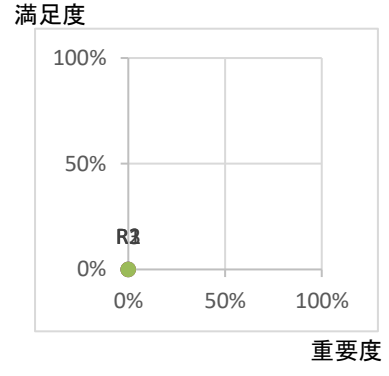
設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	80.2%	85.0%	79.6%	80.4%	78.7%	そう思う(満足)	13.2%			
			93.6%	94.6%	92.6%	どちらかといえば思う	65.5%			
重要度			91.5%	90.4%	89.6%	どちらかといえば思わない	15.4%			
						そう思わない(不満)	2.6%			
					重要	46.5%				
					どちらかといえば重要	43.1%				
					重要ではない	5.6%				



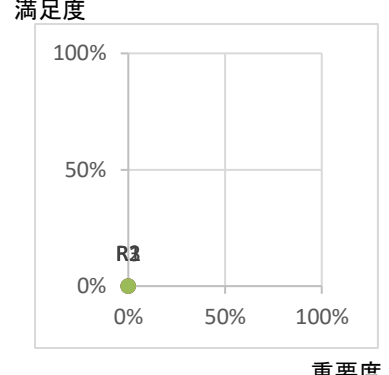
設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
					重要					
					どちらかといえば重要					
					重要ではない					



設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
					重要					
					どちらかといえば重要					
					重要ではない					



設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
					重要					
					どちらかといえば重要					
					重要ではない					



結果分析 設問1の満足度・重要度は現状値未満となった。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い家庭保育をお願いする期間があったことや、児童館・子育て支援センターの休館などが一因と考える。市民の満足度を上げるには更なる子育て環境の充実が必要であると考えられる。今後もより一層子育て環境の充実に努めていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
第2期菊川市子ども・子育て支援事業計画に基づき各種事業を実施したが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、活動が計画通り行えないものもあった。保育園・認定こども園は、西方認定こども園の施設整備や認定こども園みなみこども園の保育枠の拡大により、国定義務待機児童は4年連続0人となった。このほか、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯を支援する観点から、臨時特別給付金の支給に迅速に取り組んだ。社会環境の変化や核家族化などにより出生数が減少する中、安心して子どもを産み育てる社会の実現、子どもたちが健やかに育つことができる社会の実現に向け、引き続き安心して子育てできる環境を整備していく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R3	政策	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり										子ども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	16					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度				
	政策事業費(予算)	201,667	197,936	201,929	政策費増減額		△ 3,731	3,993				
	政策費/全体費				比較		98%	102%				
	政策事業費(決算)	182,122	168,477		一般財源増減額		1,015	△ 35,548				
政策費/全体費				比較		101%	81%					
コスト分析と課題	健診事業や予防接種事業については、出生数の減少によって影響が予測される。一方不妊治療の一部保険適用やHPV(子宮頸がん)ワクチンの接種勧奨再開に伴う影響などを注視し対応していく必要がある。											

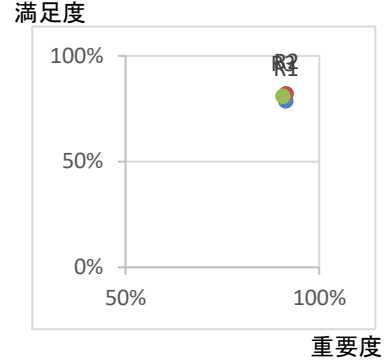
指標評価	総合計画										行政評価
	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合	%	82.5	88.0	78.7	82.0	80.9	85.6	94.6%	現未	B
	関連する施策										
	乳幼児健診の受診率(1歳6か月健診と3歳健診の平均)	%	96.5	100.0	97.8	103.7	97.3	98.4	98.8%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	妊娠から出産、育児まで、切れ目のない支援を進める体制整備に取り組んだ。乳幼児健診の受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響により日程変更や延期等により受診率は下がる結果となっている。新型コロナウイルス感染症に対しては感染予防対策を徹底し事業に取り組む必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	縮減化△
	1 母子保健事業の実施で親と子の健やかな成長を支援します	子育て応援課	B		A	維持	維持	①		
	2 医療費助成で親と子の健康増進を推進します	子育て応援課	S		B	維持	維持	③		
3 子どもの成長や発達の支援に取り組みます	子育て応援課	S		A	維持	維持	①			

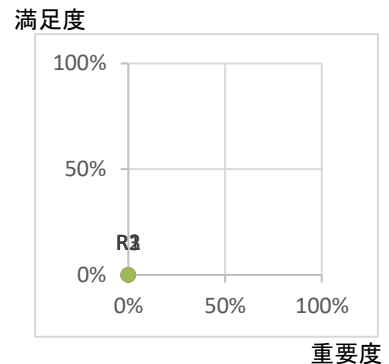
市民アンケート結果

総合評価

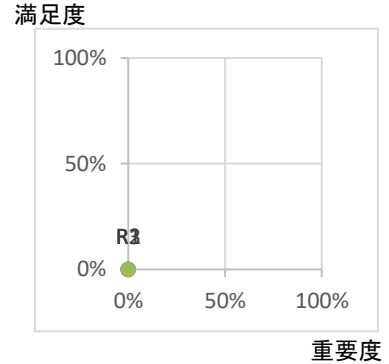
設問	1 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	82.4%	88.0%	78.7%	82.0%	80.9%	そう思う(満足)	16.0%			
						どちらかといえば思う	64.9%			
						どちらかといえば思わない	13.5%			
						そう思わない(不満)	2.2%			
重要度			91.4%	91.5%	90.7%	重要	50.6%			
						どちらかといえば重要	40.1%			
						重要ではない	4.7%			



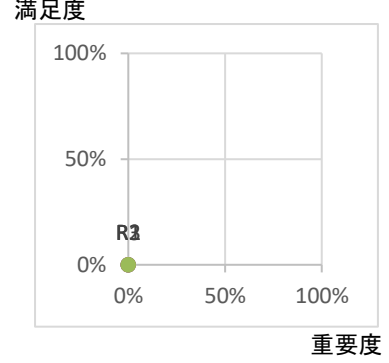
設問	1 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	1 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	1 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 設問1の満足度・重要度は現状値未満となった。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う日程変更や日本脳炎ワクチン不足などが一因と考える。市民満足度をさらに上げるため「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子どもを安心して生み、育てられるまちづくりを着実に進めていきたい。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
母子保健事業・予防接種事業は、新型コロナウイルス感染症による日程変更や日本脳炎ワクチンの不足など事業に影響を及ぼした。令和4年度から不妊治療の一部が保険適用となることや、HPV(子宮頸がん)ワクチンの接種勧奨再開など、国の制度への対応を確実に進めていく必要がある。支援が必要となる子どもや家庭に対し関係機関と連携し個別のケースに応じた支援を行った。今後も感染予防対策を徹底し各種事業に取り組み、子どもを安心して生み、育てられるまちづくりを着実に進めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R3	政策	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	1	2	4							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度				
	政策事業費(予算)	1,151,630	1,059,293	1,154,683	政策費増減額		△ 92,337	95,390				
	政策費/全体費				比較		92%	109%				
	政策事業費(決算)	1,153,308	1,076,377		一般財源増減額		28,017	82,818				
	政策費/全体費				比較		107%	120%				
	コスト分析と課題	耐震補強・大規模改造工事など建築工事に係る経費は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより材料費が高騰し、年々コストが上昇している。また、施設の老朽化により修繕費などの維持管理経費が大きくなっている。学校給食についても物価の上昇により賄材料費の確保が課題となっている。給食費の改正も視野に入れた検討が必要である。										

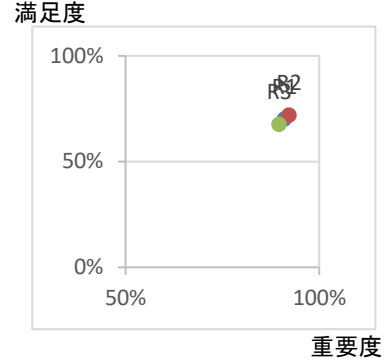
指標評価	総合計画										行政評価
	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
	「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思ふ市民の割合	%	74.1	79.0	70.0	71.9	67.5	76.8	87.9%	現未	C
	関連する施策										
	学校施設の耐震化率	%	76.9	100.0	88.7	92.5	94.3	89.7	105.1%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	今年度の小笠南小学校の耐震補強・大規模改造工事など、毎年校舎の耐震補強工事を実施することにより、着実に耐震化率が上昇している。しかし、市民アンケートの結果は昨年度より下がっている。これは、学校施設だけの問題ではなく、通学路や防災体制など様々な教育環境によるものであり、特に令和3年度は六郷小学校区での交通事故の影響が出ているのではないかと考える。										

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度				
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 学校施設を適正に維持管理し耐震化や長寿命化に努めます	教育総務課	B		A	維持	維持	①			
	2 安全で安心して教育が受けられる環境づくりに努めます	教育総務課	S		A	維持	維持	①			
3 安全でおいしい給食を安定的に提供します	教育総務課	S		A	維持	維持	①				

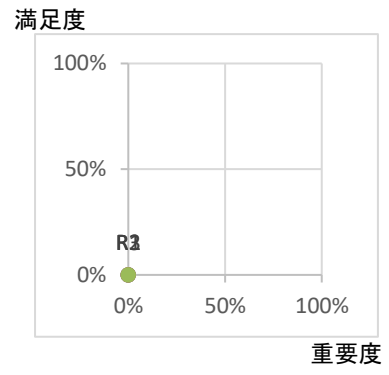
市民アンケート結果

総合評価

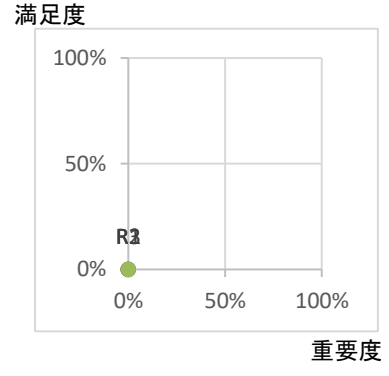
設問	1 「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	74.1%	79.0%	70.0%	71.9%	67.5%	そう思う(満足)	8.6%	どちらかといえば思う	58.9%	
			88.6%	91.0%	85.4%	どちらかといえば思わない	25.0%	そう思わない(不満)	4.3%	
重要度			91.0%	92.2%	89.7%	重要	50.7%	どちらかといえば重要	39.0%	
						重要ではない	6.0%			



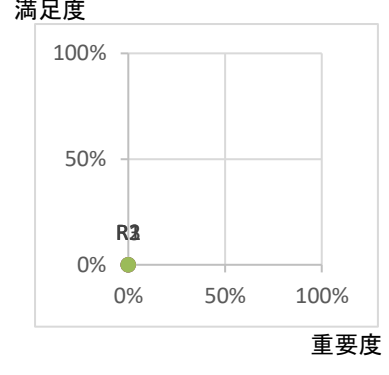
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



結果分析 設問1の満足度、重要度ともに高い評価を受けている。着実に毎年耐震補強工事など、学校施設の整備を実施している結果である。また、老朽化している施設もあるが適切な修繕や維持管理を行っている。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
令和3年度は小笠南小学校の耐震補強工事を実施し、耐震化率を向上させることができた。今後も子どもの安全・安心な教育環境を整えるため、耐震化率100%を目標に実施していく。また、耐震化に合わせ、老朽化による施設の改修を行い、校舎の長寿命化を図る必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち										作成部署
R3	政策	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	4	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)		248,179	178,540	226,497	政策費増減額			△ 69,639	47,957		
	政策費/全体費					比較			72%	127%		
	政策事業費(決算)		265,546	185,910		一般財源増減額			△ 36,518	54,481		
	政策費/全体費				比較			80%	136%			
	コスト分析と課題	令和2年度にGIGAスクール構想による児童生徒一人ひとりへのタブレット端末を導入したことにより、令和3年度は経費が減少しているが、今後は機器の更新などの経費が増大すると予想される。										

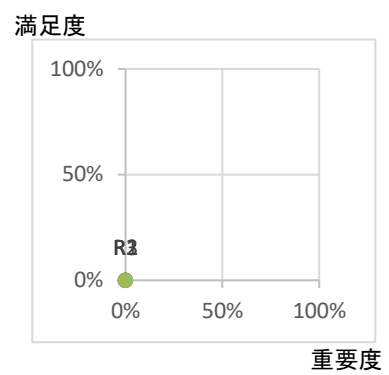
指標評価	総合計画										行政評価
	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	92.0	93.0	90.8	94.1	94.1	92.6	101.7%	S	B
	関連する施策										
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	87.3	90.0	91.6	91.1	92.3	88.8	103.9%	S	B
	関連する施策										
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	91.9	93.0	91.6	92.6	91.9	92.5	99.3%	B	B
	関連する施策										
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	83.4	85.0	86.7	87.2	87.4	84.3	103.7%	S	B
関連する施策											
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	90.6	91.0	91.6	93.2	94.1	90.8	103.6%	S	B	
関連する施策											
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	80.4	85.0	87.8	88.3	88.3	83.0	106.4%	S	B	
関連する施策											
全国学力学習状況調査における平均正答率(全国を100)	%	103.7	104.7	99.6	実施なし	99.6	104.3	95.5%	現未	B	
関連する施策											
指標分析と課題	「授業がわかる」、「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒は小学校に比べ中学校が低い数値となっているが、昨年度より中学校にて数値の上昇がみられる。ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により質の高い授業、不登校児童生徒への対応などきめ細かな対応を行っていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	
	1 ICT環境を生かした魅力ある授業づくりを推進します	学校教育課	B	S	A	維持	維持	①		
	2 「一人ひとりが生きる教育」を推進します	学校教育課	現未		A	維持	維持	①		
3 中学校区等を核とした学びの環境づくりを推進します	学校教育課	S		A	維持	維持	①			

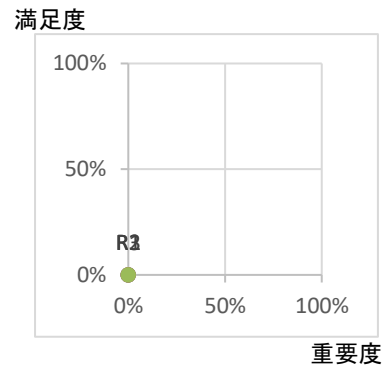
市民アンケート結果

総合評価

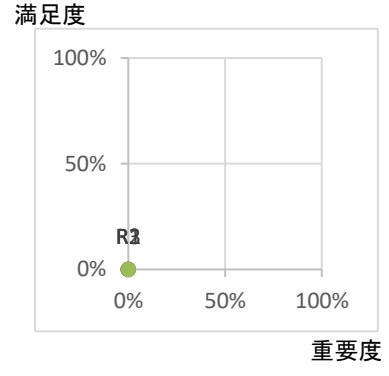
設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度	
満足度					そう思う(満足)	
					どちらかといえば思う	
					どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)	
重要度					重要	
					どちらかといえば重要	
					重要ではない	



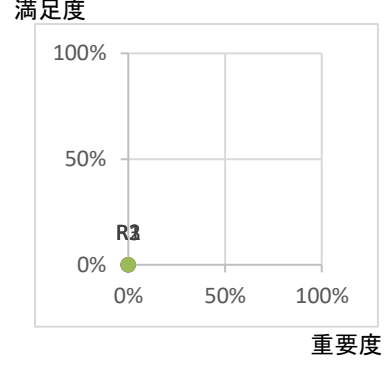
設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度	
満足度					そう思う(満足)	
					どちらかといえば思う	
					どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)	
重要度					重要	
					どちらかといえば重要	
					重要ではない	



設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度	
満足度					そう思う(満足)	
					どちらかといえば思う	
					どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)	
重要度					重要	
					どちらかといえば重要	
					重要ではない	



設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度	
満足度					そう思う(満足)	
					どちらかといえば思う	
					どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)	
重要度					重要	
					どちらかといえば重要	
					重要ではない	



結果分析 ※市民アンケート結果なし

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	維持→	③ 政策内容
ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により、質の高い授業が行われている。しかし、GIGAスクール構想により導入したタブレット端末について、教職員への支援や導入ソフトなどを検討する必要がある。今後も適用指導教室の運営や心の教育相談員の配置などによりきめ細かな指導を実施していく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち								作成部署
R3	政策	5 人を育み、若者を育てるまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	政策事業費(予算)		25,128	20,296	21,021	政策費増減額			△ 4,832	725
	政策費/全体費					比較			81%	104%
	政策事業費(決算)		15,796	11,918		一般財源増減額			△ 4,493	△ 1,896
	政策費/全体費				比較			82%	91%	
	コスト分析と課題	新型コロナウイルス感染症の影響からイベントの中止や縮小などにより経費は減少している。感染症に配慮したイベントの開催方法などにより目標に向けた取り組みが必要である。								

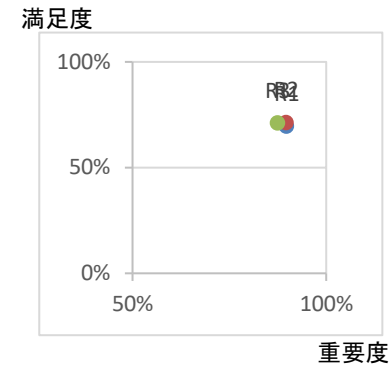
指標評価	総合計画										行政評価
	5 人を育み、若者を育てるまちづくり										指標評価
	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	関連する施策	%	72.4	82.0	69.5	71.3	71.0	77.7	91.3%	現未	B
	12歳以下の児童図書年間貸出冊数(1人あたり)	冊	28.7	33.0	34.9	28.2	34.1	31.1	109.7%	S	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	市民アンケートの結果は昨年度と比べてほぼ同様の数値となったが、新型コロナウイルス感染症対策による図書館の休館の影響で少なかった令和2年度より、貸出冊数は増加した。今後も感染症に配慮しコロナ禍以前の数値に回復できるか対策を検討する必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度 拡充化○ 縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性 コスト 成果 改善				
	1 地域で子どもを守り育てる取り組みを進めます	社会教育課、企画政策課	現未	B	縮小	維持	①			
	2 家庭の教育力向上に取り組みます	社会教育課	B	A	維持	維持	①			
3 子どもの読書活動を推進します	図書館	S	A	維持	維持	③				

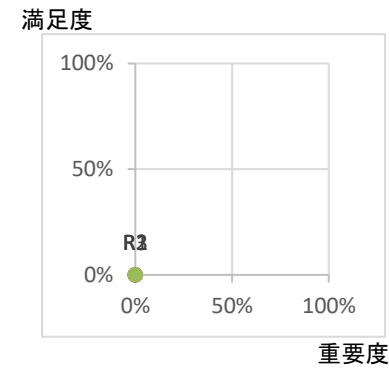
市民アンケート結果

総合評価

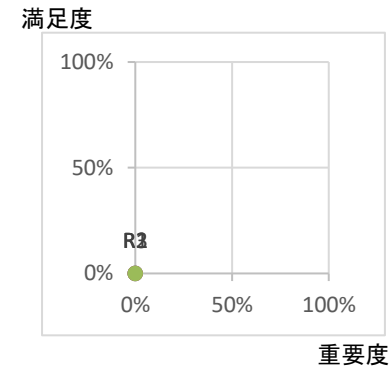
設問	1 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	72.4%	82.0%	69.5%	71.3%	71.0%	そう思う(満足)	9.7%
						どちらかといえば思う	61.3%
			84.8%	87.0%	86.6%	どちらかといえば思わない	22.9%
重要度						そう思わない(不満)	2.6%
			89.8%	89.7%	87.5%	重要	40.9%
						どちらかといえば重要	46.6%
					重要ではない	8.0%	



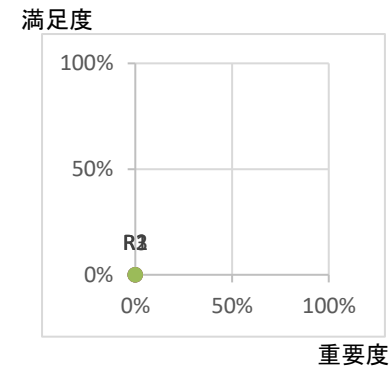
設問	2 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
					重要ではない		



設問	3 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
					重要ではない		



設問	4 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
					重要ではない		



結果分析 設問1の満足度・重要度とも高い評価を受けている。しかし、約3割の市民は満足していない結果であり、すべてがこの事業によるものとは考えにくい。満足が得られるような事業を実施していく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③

新型コロナウイルス感染症対策として制限を実施した期間はあったが、菊川文庫及び小笠図書館の2館を開館し、図書の貸し出しやイベント等の事業を実施した。今後も地域や企業の協力をいただきながら、青少年の健全育成やその活動を支える人材の育成を行っていく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち	作成部署					
R3	政策	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	健康福祉部					
		SDGsゴール 3						
コスト評価	事業費と割合(千円)		予算額比較(千円)					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	政策事業費(予算)	129,550	345,747	452,969	政策費増減額		216,197	107,222
	政策費/全体費				比較		267%	131%
	政策事業費(決算)	129,974	534,412		一般財源増減額		△ 244,009	262,129
政策費/全体費				比較		-181%	-67%	
コスト分析と課題	新型コロナウイルスワクチン接種事業実施のため、事業費全体が大きく増加している。(一部を除き国庫10/10)また、新型コロナウイルス感染症拡大により、自宅療養支援事業を開始したことも事業費増加の要因となった。受診控えの影響により3市で運営する急患診療所の診療報酬が減ったことから、負担金の抛出が増えた。コロナ禍において、実施を中止した事業もあったが、開催方法を工夫する等し、概ね計画どおり実施することができた。今後もコロナ禍の影響を踏まえながら、予算確保及び事業実施をしていく必要がある。							

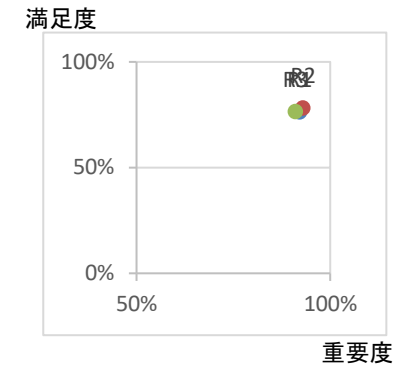
指標評価	総合計画										行政評価
	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思ふ市民の割合	%	79.5	85.0	76.3	78.1	76.4	82.6	92.5%	現未	B
	関連する施策										
	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思ふ市民の割合	%	65.3	75.0	55.1	62.1	64.4	70.7	91.1%	現未	B
	関連する施策										
	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思ふ市民の割合	%	65.5	76.0	61.0	66.0	68.3	71.3	95.7%	B	B
	関連する施策										
	一般成人 栄養のバランスに「気をつけている」と「少し気をつけている」人の割合	%	88.4	90.0	91.1	R5実施	R5実施	-	-	-	-
関連する施策											
一般成人 「普段運動をしている」人の割合	%	37.9	45.0	36.5	R5実施	R5実施	-	-	-	-	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るため、すべての年代においてライフステージに応じた健康づくりに取り組み、生活習慣病の発症予防と重症化予防など、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践するよう支援している。 指標評価1については、1.7ポイント低下し、指標評価2・3については、それぞれ2.3ポイント上昇したが、目標値を下回っている。 引き続き、一人ひとりが若い時期から健康に関心を持ち、定期的な健診(検診)の受診を行うための支援や、健康への意識を高め正しい生活習慣を継続して実践することへの支援を行う必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	
	1 健康増進事業の実施によりみんなの健康を作ります	健康づくり課	S		B	維持	維持	①		
	2 検診事業の実施によりみんなの健康を維持します	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①		
	3 心の健康事業の実施によりみんなの心の健康を作ります	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①		
4 予防接種事業の実施により疾病予防を行います	健康づくり課、環境推進課	S	S	C	縮小	維持	③			

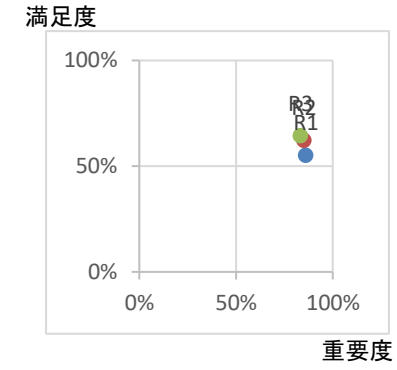
市民アンケート結果

総合評価

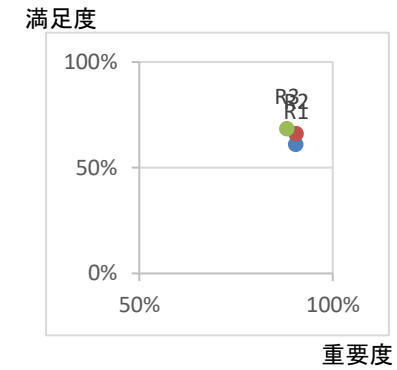
設問	1	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	79.4%	85.0%	76.3%	78.1%	76.4%	そう思う(満足)	15.0%
			89.8%	91.9%	89.9%	どちらかといえば思う	61.4%
重要度			92.1%	93.0%	91.0%	どちらかといえば思わない	18.7%
						そう思わない(不満)	2.8%
					重要	42.5%	
					どちらかといえば重要	48.5%	
					重要ではない	5.1%	



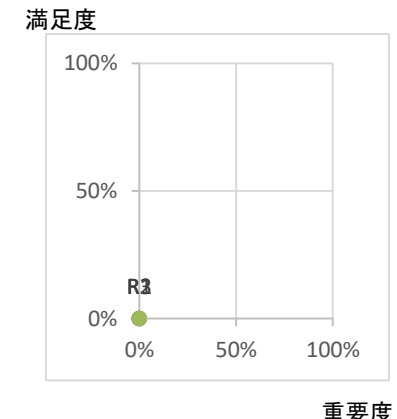
設問	2	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	65.3%	75.0%	55.1%	62.1%	64.4%	そう思う(満足)	8.3%
			73.5%	82.8%	85.9%	どちらかといえば思う	56.1%
重要度			86.1%	85.1%	83.3%	どちらかといえば思わない	30.7%
						そう思わない(不満)	2.3%
					重要	25.1%	
					どちらかといえば重要	58.2%	
					重要ではない	12.8%	



設問	3	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	65.5%	76.0%	61.0%	66.0%	68.3%	そう思う(満足)	12.5%
			80.3%	86.8%	89.9%	どちらかといえば思う	55.8%
重要度			90.5%	90.6%	88.2%	どちらかといえば思わない	26.5%
						そう思わない(不満)	3.4%
					重要	39.7%	
					どちらかといえば重要	48.5%	
					重要ではない	7.8%	



設問		結果(満足度下段:達成率)					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



結果分析 設問2・3については、前年度から満足度は上昇しているが、設問1については、低下してしまった。重要度については、全ての設問で前年度より低下してしまっている。健康づくりに関心を持つ人が増加し、健康づくりに関する取り組みを実践してもらい、引き続き「すこやかプラン」に沿って健康寿命の延伸と健康格差の縮小に向けて取り組んでいく。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方

「適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり」を進めるためには、「第2次菊川すこやかプラン」に基づき、ライフステージごとに健康への意識を高めるために、すべての人が健康に関心を持つような取り組みが必要である。若い時期から健康に関心を持ってもらえるよう情報提供や啓発活動を行い、定期的な健診(検診)受診への支援や、健診結果を正しく理解するための知識の普及も行っていく。特に、高齢者については、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」により、個別的な支援を行っていく。計画期間の最終年度に向けて、市民一人ひとりが健康への意識を高め、正しい生活習慣を継続して実践できるよう支援し、令和4年度に実施する「食と健康・生活習慣に関するアンケート調査」にて評価を行っていく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R3	政策	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	8	10	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度				
	政策事業費(予算)	674,912	668,233	664,926	政策費増減額		△ 6,679	△ 3,307				
	政策費/全体費				比較		99%	100%				
	政策事業費(決算)	680,568	650,034		一般財源増減額		9,445	△ 2,190				
	政策費/全体費				比較		102%	100%				
コスト分析と課題 実施件数や委託割合の増加、報酬改定による介護予防事業費の増加、介護保険特別会計への繰出金の増額があったりしたが、敬老会中止等による事業費の減額や移送サービスの見直し・利用実績の減少、前年度に実施した介護保険施設等施設整備が無くなったこと等に伴い、決算額は前年度より減少した。 在宅福祉サービスや介護サービスを提供するための各事業は適切に実施できている。 コロナ禍により一部実施できなかったり、実施方法を変更したりした事業があったが、実施方法を検討し、適切な予算確保及び執行に努める必要がある。												

指標評価	総合計画										行政評価
	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
	「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	59.9	70.0	57.0	57.3	60.9	65.5	93.0%	B	B
	関連する施策										
	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合	%	55.9	66.0	54.8	60.0	60.1	61.5	97.7%	B	B
	関連する施策										
	要支援・要介護認定を受けていない高齢者の割合	%	85.2	82.8	86.1	85.6	85.5	83.9	101.9%	S	B
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるようにするため、地域包括支援センターの機能強化や介護予防の取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図る取り組みを進めている。 指標評価1・2においては、実績値が年々上昇しており、取り組みの成果が出てきていると考える。指標3については、目標値は達成しているが横ばい傾向であるため、一層の介護予防への取り組みが必要となる。 引き続き、今後ますます増加が見込まれる認知症への対応や、継続的な在宅医療・介護を提供するための関係機関との連携も必要である。										

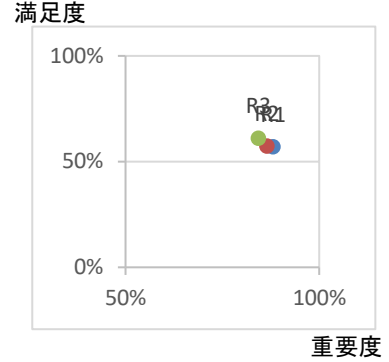
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価		R5年度 拡充化○ 縮減化△				
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性 コスト 成果 改善				
	1 高齢者の介護予防と生きがいづくりを進めます	長寿介護課	B	A	維持 拡充	②				
	2 地域包括ケアの体制を充実します	長寿介護課	S	A	拡充 拡充	①				
3 高齢者の生活を支援する介護サービスを推進します	長寿介護課	S	A	維持 維持	①					

市民アンケート結果

総合評価

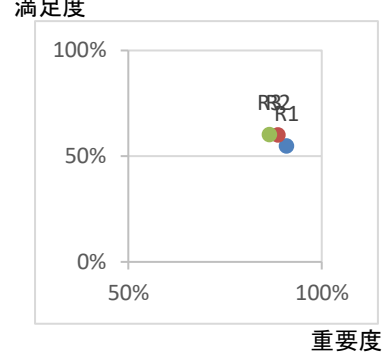
設問 1 「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	59.9%	70.0%	57.0%	57.3%	60.9%	そう思う(満足)	7.1%
						どちらかといえば思う	53.8%
			81.4%	81.9%	87.0%	どちらかといえば思わない	33.1%
						そう思わない(不満)	3.8%
重要度			88.1%	86.5%	84.3%	重要	33.6%
						どちらかといえば重要	50.7%
						重要ではない	11.7%



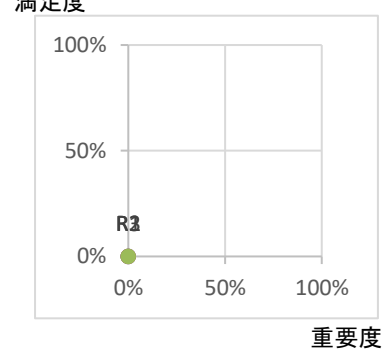
設問 2 「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	55.9%	66.0%	54.8%	60.0%	60.1%	そう思う(満足)	8.1%
						どちらかといえば思う	52.0%
			83.0%	90.9%	91.1%	どちらかといえば思わない	33.6%
						そう思わない(不満)	4.0%
重要度			90.9%	88.7%	86.5%	重要	41.4%
						どちらかといえば重要	45.1%
						重要ではない	9.4%



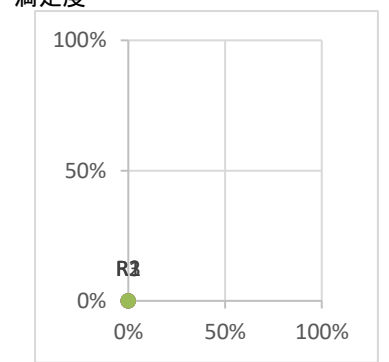
設問 3 「高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるようにするため、地域包括支援センターの機能強化や介護予防の取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図る取り組みを進めている」

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問 4 「高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくりを進めるためには、第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画に基づき、重点施策として位置付ける「認知症施策の推進」、「介護予防の推進」等を計画的に進めていく必要がある。認知症施策では、新オレンジプランや認知症施策推進大綱に沿って、認知症に対する理解の普及、予防等に取り組み、介護予防では、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」により、通いの場を活用し積極的関与を進めていく。今後も引き続き、高齢者の身体的、精神的及び社会的特性を踏まえ、高齢者が健康で活動的に暮らせるよう支援していく。」

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1の満足度は、前年度から3.6ポイント上昇し、目標値に対する達成度も87.0%となったが、引き続き「生きがいを感じながら暮らせる」ための更なる取り組みが必要である。設問2では、満足度は前年度から0.1ポイントではあるが上昇し、目標値に対する達成度も91.1%となり、目標値達成に向けて順調に推移していると考えられる。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方

政策評価シート

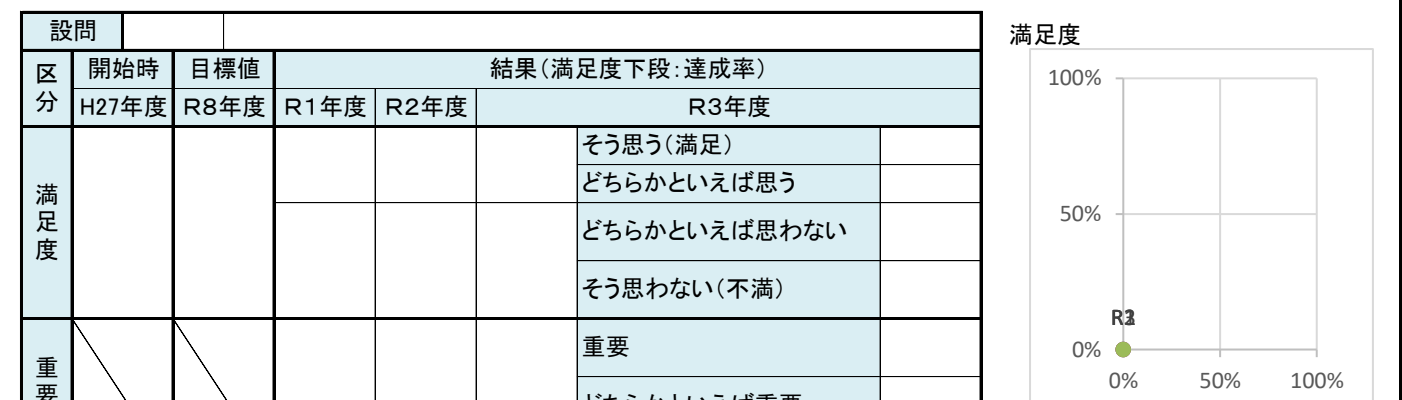
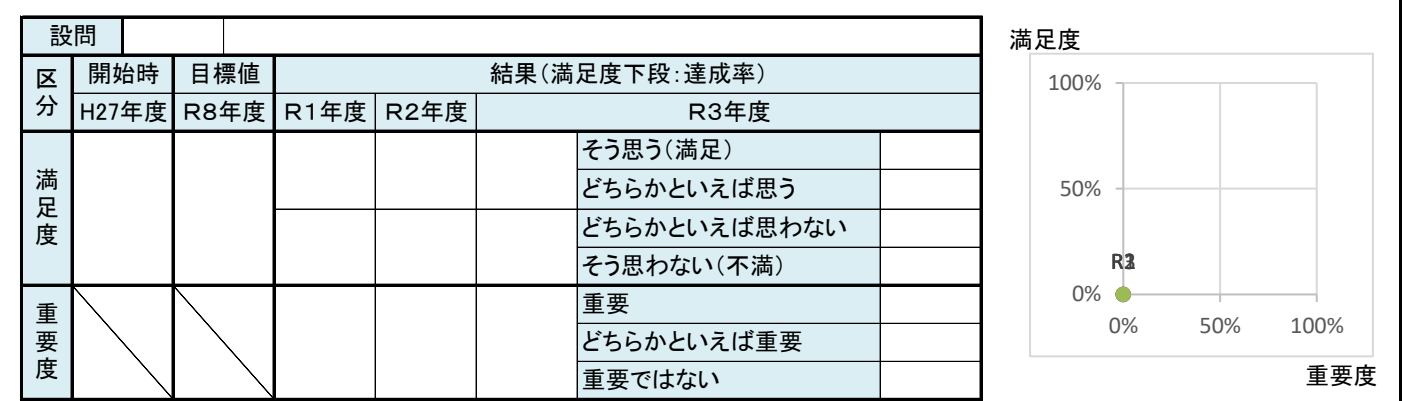
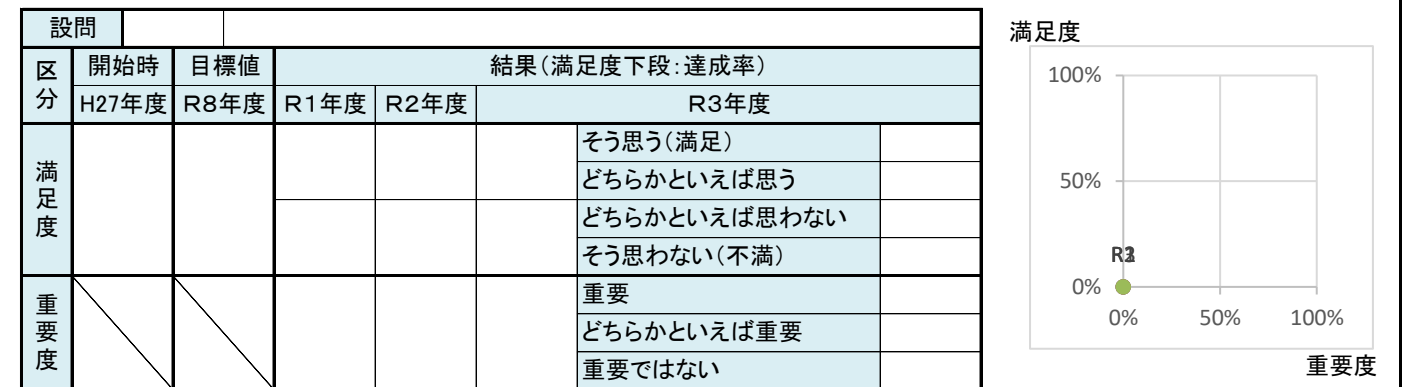
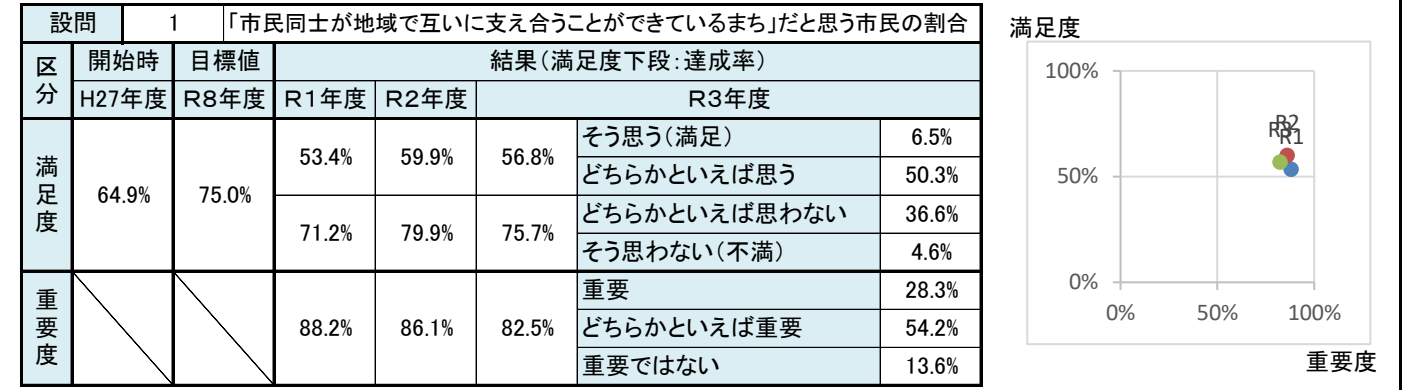
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R3	政策	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	10	11	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)		242,954	275,478	235,845	政策費増減額			32,524	△ 39,633		
	政策費/全体費					比較			113%	86%		
	政策事業費(決算)		245,900	531,831		一般財源増減額			△ 362,709	251,208		
	政策費/全体費				比較			-203%	-3%			
	コスト分析と課題	令和3年度は、プラザげやき南館の解体やそれに伴う整備が行われたことで、事業費が大きく増加した。市民の福祉活動の拠点として多くの人に活用してもらおうことができるよう、定期点検及び公共施設個別施設計画に沿った計画的な整備と予算確保をしていく必要がある。また、令和3年度には浸水被害や受電設備の故障が発生し、緊急的な対応が必要となったことから、現状に応じた計画の見直しをしていく事も必要である。										

指標評価	総合計画										行政評価
	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C	D	C/D				
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」だと思う市民の割合	%	65.0	75.0	53.4	59.9	56.8	70.6	80.5%	現未	C
	関連する施策										
	コミュニティ協議会の福祉部会に携わる人数	人	200	220	233	219	163	211	77.2%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	少子高齢・人口減少等の社会構造が変化の中で、市民の複雑化・複合化した生活課題に寄り添い、関連部署や関係機関、市民等と連携したきめ細やかな支援を行うため、市民等が支え合い、地域をともに創っていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けた取り組みについて、令和3年度に策定をした「第4次菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に沿いながら進めていく。 指標評価1・2とも、令和2年度の実績より低下してしまった。特に指標2については、コロナ禍の影響により活動制限等があったことで人数が大きく減少した。 今後は、 ウイズ コロナ下での地域福祉活動の再開をしていくと共に、避難行動要支援者に対する対応についても協議を進めていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度 拡充化○ 縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性 コスト	成果		改善	
	1 地域における市民の福祉活動を支援します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	①			
	2 地域福祉の担い手を育成・支援します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	①			
3 地域のなかでの自立した生活を応援します	福祉課	現未	A	維持	維持	①				

市民アンケート結果

総合評価



結果分析 満足度について、令和2年度は上昇したものの、令和3年度は56.8%と前年度より3.1ポイント低下してしまい、達成率が75.7%と依然として低い水準にある。また、重要度も82.5%と前年度から3.6ポイント低下し、過去最低値となってしまった。コロナ禍において「地域共生」の必要性・重要性が市民の間に浸透していくことが、数値の上昇につながると考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
「地域のなかで、互いに支え合うまちづくり」を進めるためには、ライフステージに沿った相談支援窓口の周知や、相談しやすい窓口づくり(重層的な支援体制づくり)、専門的な人材育成等が必要である。 各分野の要となる相談支援窓口間の連携はもとより、相談支援機関間の包括的な連携により、一人ひとりに寄り添った支援をしていく。また、相談支援や課題解決にあたっている身近な組織・人材との連携も強化していく。 コロナ禍において複雑化・複合化する問題についても、引き続き、地域福祉への理解の醸成や、地域福祉に関わる地域活動者の拡大を図るなど、断らない相談支援を行っていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R3	政策	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	3	8	10							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)		959,884	1,007,718	1,056,495	政策費増減額			47,834	48,777		
	政策費/全体費					比較			105%	105%		
	政策事業費(決算)		1,037,099	1,107,917		一般財源増減額			△ 15,119	120,733		
	政策費/全体費				比較			94%	151%			
コスト分析と課題		令和3年度は各種障害福祉サービスの報酬改定が行われたことや、サービス利用者の増加等に伴い、事業費は増加した。年々事業費は増加しているが、予算に対し、適正な執行がされている。事業費の多くが国が定める手当やサービスであり、また、障がいのある人やその家族の生活や活動を支えるために必要な事業でもあるため、事業費の削減は難しいが、適正な支給と予算の確保が必要である。										

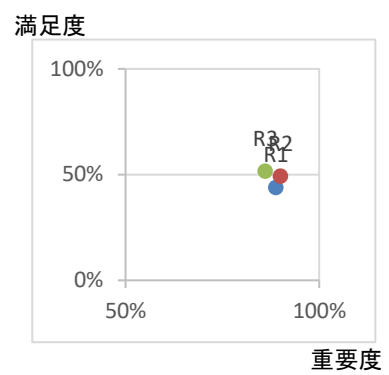
指標評価	総合計画										行政評価
	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思える市民の割合	%	43.5	59.0	43.9	49.2	51.6	52.1	99.0%	B	B
	関連する施策										
	自立支援給付等決定対象者数	人	363	482	376	440	484	429	112.8%	S	A
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	障がいの有無にかかわらず、全ての人が社会の一員として、様々な活動への参加を通じて互いの理解を深め、尊重し合い、支え合うことで、安心して地域での生活を継続することができるよう、障害福祉サービス事業を実施している。指標評価1・2とも前年度より実績値が増加し、指標評価2については、目標値を達成した。サービスを必要とする人が必要とするサービスを受けることができるよう、制度の周知をするとともに適正な支給を行い、また、障害者手帳所持者数が増加する中で、障害福祉サービス提供体制の整備や福祉人材の確保を行っていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度 拡充化○ 縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性				
					コスト	成果	改善			
	1 障がいのある人の自立した生活を支援します	福祉課	S	A	拡充	拡充	①			
2 障がいのある人の地域での活動を促進します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	②				
3 障がいのある子どもの福祉サービスを充実します	福祉課	S	A	拡充	拡充	①				

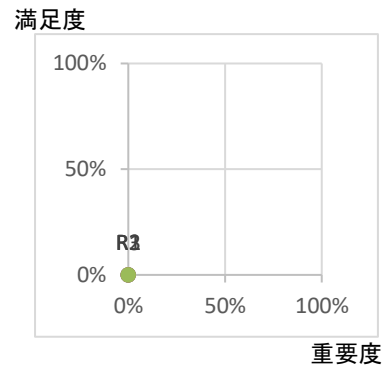
市民アンケート結果

総合評価

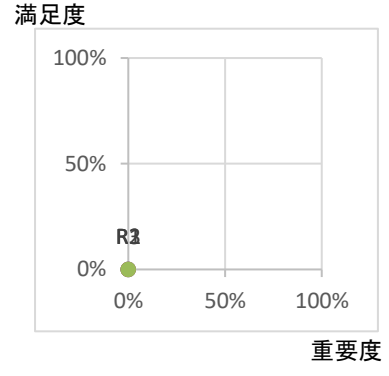
設問	1 「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思える市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	43.5%	59.0%	43.9%	49.2%	51.6%	そう思う(満足)	4.5%			
			74.4%	83.4%	87.5%	どちらかといえば思う	47.1%			
重要度			88.8%	90.0%	86.1%	どちらかといえば思わない	40.0%			
						そう思わない(不満)	5.3%			
						重要	38.3%			
						どちらかといえば重要	47.8%			
						重要ではない	9.5%			



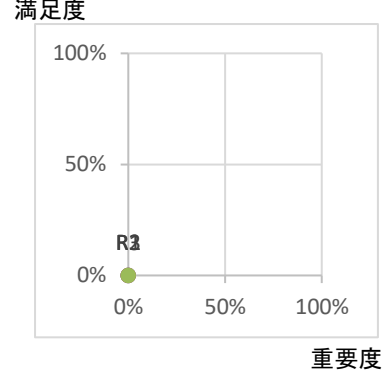
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析
満足度については前年度から2.4ポイント上昇し、達成率も4.1ポイント上昇し目標値の59.0%に更に近づいた。しかし、重要度は前年度から3.9ポイント低下し、過去最低値となってしまったが、毎年度85%以上の数値を保つことができている。障がいのある方が安心して暮らすことができるよう満足度を更に充実していくと共に、障がいに対するまち全体の意識も高めていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
「障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくりを進めるためには、障がいのある方が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、地域生活の継続支援や就労支援など、障害福祉サービスの提供体制を整え、地域全体で支える仕組みの実現が必要である。地域生活支援事業や障害福祉サービス事業など、利用者の状況やサービス利用動向を的確に把握し、サービスニーズに応えられるよう進めていく。今後も、障がいのある人が自立した日常生活や社会生活ができるよう、多様なニーズを踏まえた支援をしていく。						

政策評価シート

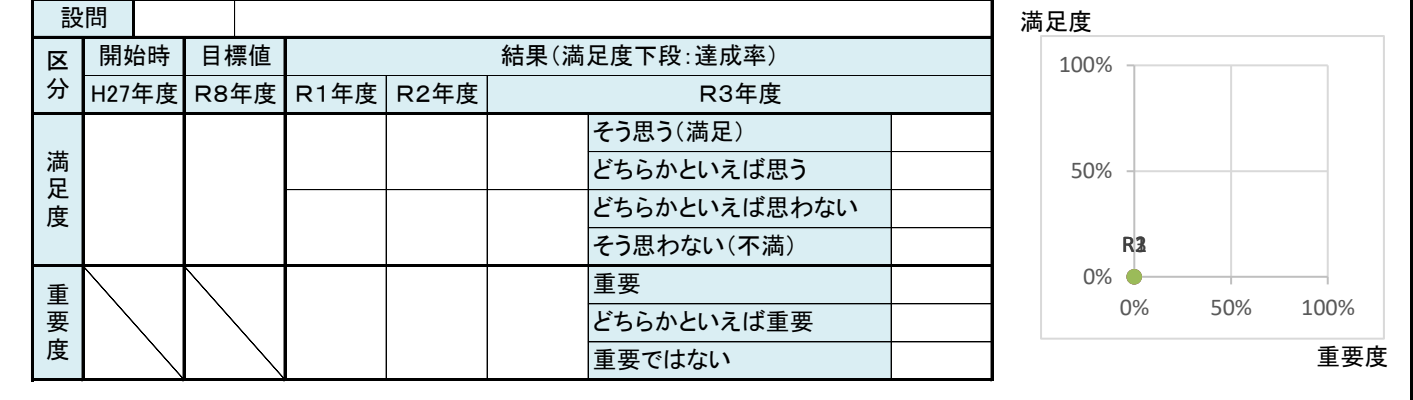
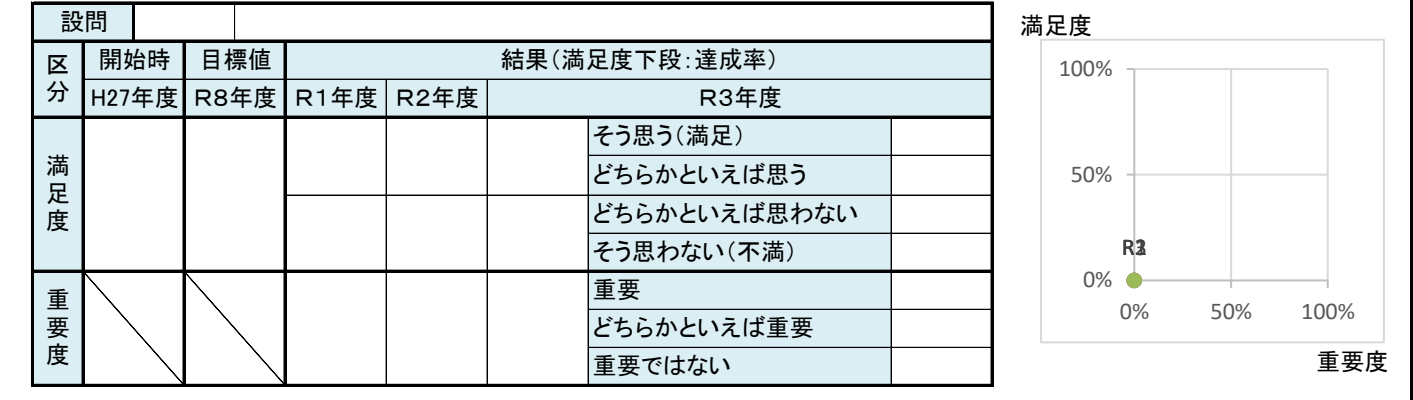
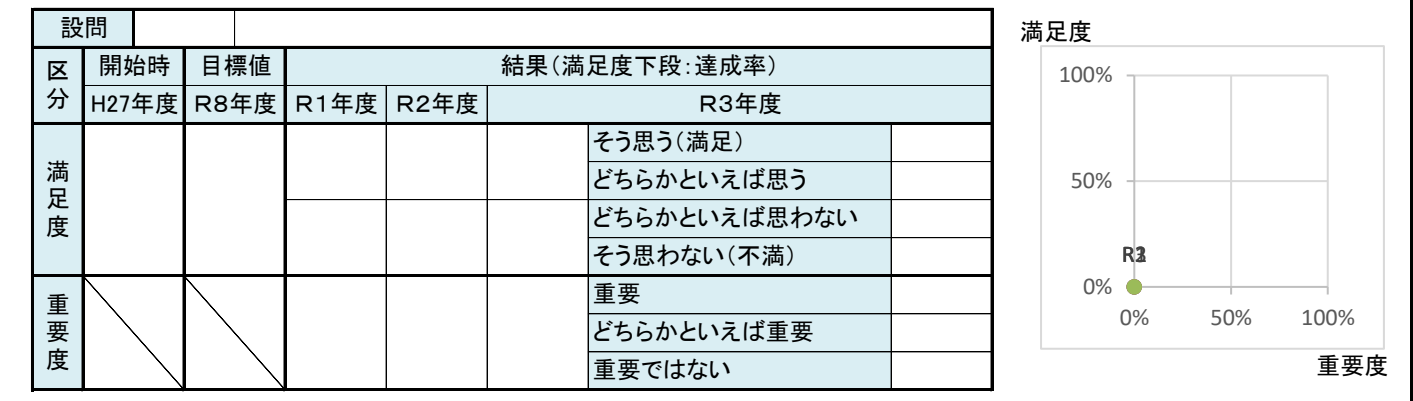
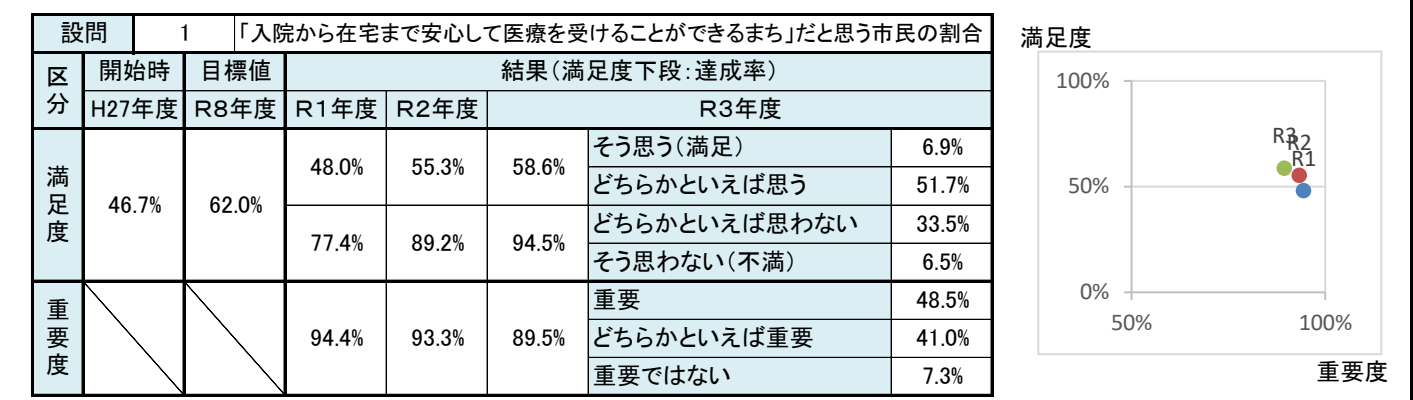
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R3	政策	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり								菊川病院
	SDGsゴール	3	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)	1,142,751	1,198,453	1,199,866	政策費増減額		55,702	1,413		
	政策費/全体費				比較		105%	100%		
	政策事業費(決算)	1,147,065	1,206,653		一般財源増減額		79,362	△ 6,501		
政策費/全体費				比較		107%	99%			
コスト分析と課題	病院事業は、病院事業会計において適正に処理されている。									

指標評価	総合計画										行政評価
	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思える市民の割合	%	46.7	62.0	48.0	55.3	58.6	55.2	106.2%	B	B
	関連する施策										
	菊川病院への紹介率	%	35.6	40.0	47.2	44.5	38.7	38.0	101.7%	B	B
	関連する施策										
	菊川病院からの逆紹介率	%	27.7	30.0	26.4	31.0	26.0	29.0	89.7%	現未	C
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	当市の医療体制に対して年々満足度が向上していく中で、紹介患者の受け入れや在宅等への退院支援を進める専門部署の地域医療支援課を中心に、診療所や近隣病院、介護・福祉施設等との連携を図ることができた。今後も二次医療圏内で急性期医療を確保していくためには、機能分担や効率的な医療連携が必要となってくる。その中で、今回数値が低かった逆紹介率の向上は喫緊の課題の一つである。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 医療機関、介護・福祉施設などとの連携を進めます	地域医療支援課	B	現未	A	維持	維持	①		
	2 菊川市立総合病院の機能を充実します	病院総務課、健康づくり課	S		A	維持	維持	①		
3 家庭医療プログラムを推進します	経営企画課	B		A	維持	維持	①			
4 市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します	健康づくり課、経営企画課	S		A	維持	維持	①			

市民アンケート結果

総合評価



結果分析 設問1の満足度は年々向上し、重要度についても非常に高い数値を示している。今後は要介護者、慢性疾患患者、認知症患者の更なる増加が予測され、地域包括ケアシステムの構築が急務となる中で、当院や家庭医療センターが担う役割は益々重要になると予測される。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
医療資源が不足する中東遠2次医療圏の中で当院が現在の診療機能を維持して行くためには医師の確保は最重要課題である。今後も引き続き浜松医科大学や近隣病院と連携し、臓器別専門医と家庭医の招聘を進める。また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、家庭医療センターや関係機関との連携体制を確立し、繋ぐ医療体制の実現を目指していく。						

政策評価シート

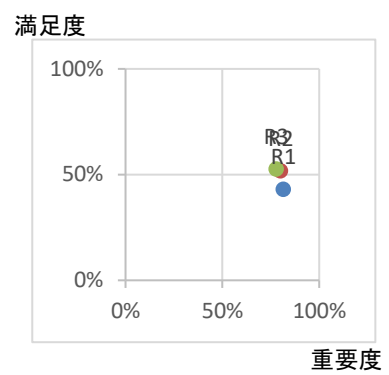
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち		作成部署							
R3	政策	6 生涯にわたり学べるまちづくり		教育文化部							
	SDGsゴール	4	11	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)		予算額比較(千円)								
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度						
	政策事業費(予算)		75,255	76,168	80,312	政策費増減額	913	4,144			
	政策費/全体費					比較	101%	105%			
	政策事業費(決算)		74,885	74,628		一般財源増減額	2,731	1,586			
	政策費/全体費					比較	104%	102%			
コスト分析と課題	新型コロナウイルス感染症の影響から講座の規模やイベントの中止などにより経費は少なくなっている。市民への教育活動を継続していく必要がある。										
指標評価	総合計画										行政評価
	6 生涯にわたり学べるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合	%	51.6	62.0	43.0	51.8	52.6	57.4	91.7%	B	B
	関連する施策										
	生涯学習講座の参加者数	人	515	600	428	30	44	562	7.8%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	市民アンケートの結果は上昇しているが、新型コロナウイルス感染症対策により生涯学習講座の中止により参加者数は昨年と同様に激減している。										
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度 拡充化○ 縮減化△			
			成果 1	成果 2	判定 評価	R5の方向性 コスト	成果	改善			
	1 生涯学習活動を推進します	社会教育課	現未		C	縮小	拡充	③			
2 読書環境の整備に努めます	図書館	S		A	維持	維持	②				
3 読書機会の提供・読書活動の啓発に努めます	図書館	B		A	維持	維持	③				

市民アンケート結果

総合評価

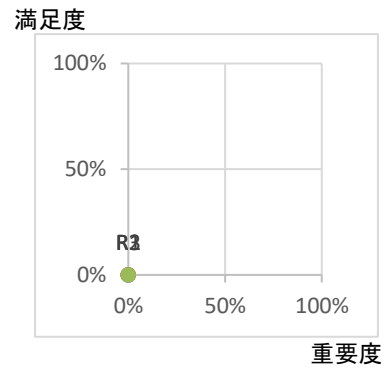
設問 1 「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思の市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度	51.6%	62.0%	43.0%	51.8%	52.6%	そう思う(満足)	4.2%
						どちらかといえば思う	48.4%
			69.4%	83.5%	84.8%	どちらかといえば思わない	40.1%
						そう思わない(不満)	4.9%
重要度			81.5%	80.1%	77.8%	重要	20.3%
						どちらかといえば重要	57.5%
						重要ではない	18.3%



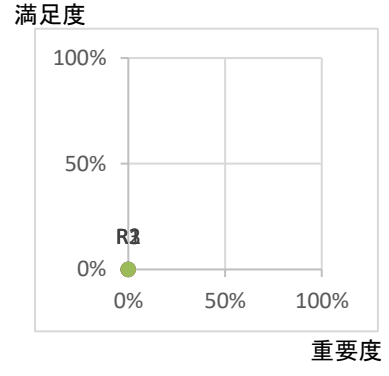
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



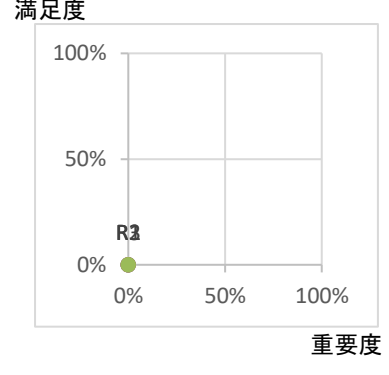
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 重要度は高いが市民の満足度が低い状況となっている。しかし、満足度は昨年と比較して上昇することができている。2つの図書館の運営や各種講座を実施してきた成果であると考えられる。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
生涯学習だよりや各種講座など新型コロナウイルス感染症対策により縮小して開催した。今後は対策を講じた上での開催を検討する必要がある。市民に対し生涯にわたり学習の機会を提供できるよう継続して実施していく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R3	政策	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	11						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)	146,113	287,516	397,965	政策費増減額		141,403	110,449		
	政策費/全体費				比較		197%	138%		
	政策事業費(決算)	155,520	269,586		一般財源増減額		33,255	△ 6,229		
	政策費/全体費				比較		127%	96%		
	コスト分析と課題	菊川文化会館アエルの設備更新に大きな経費がかかっている。今後も計画的に設備の更新を実施していく必要がある。								

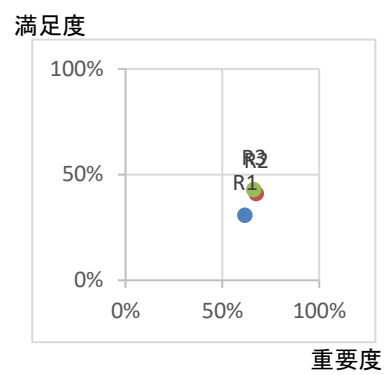
指標評価	総合計画										行政評価
	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合	%	39.1	54.0	30.7	41.0	42.8	47.4	90.3%	B	B
	関連する施策										
	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合	%	40.8	56.0	35.3	48.0	49.9	49.2	101.3%	B	B
	関連する施策										
	文化祭の来場者数	人	3,250	4,000	2,637	0	0	3,667	0.0%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	市民アンケートの結果から芸術文化活動や歴史・文化遺産が少しずつ定着していると考えられるが、まだまだ低い数値である。新型コロナウイルス感染症対策により文化祭は中止となった。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R5年度 拡充化○ 縮減化△	
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果		改善
	1 鑑賞機会の提供に努めます	社会教育課	現未		A	維持	維持	①		
	2 市民の文化・芸術活動を支援します	社会教育課	現未		B	維持	維持	①		
3 文化財の保存・周知・活用を推進します	社会教育課	現未		A	維持	維持	①			

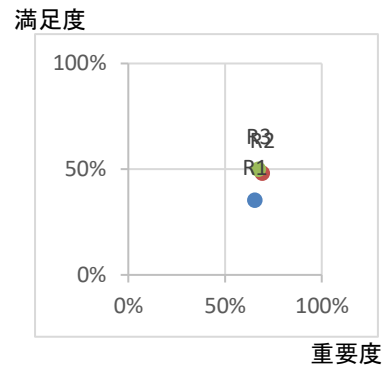
市民アンケート結果

総合評価

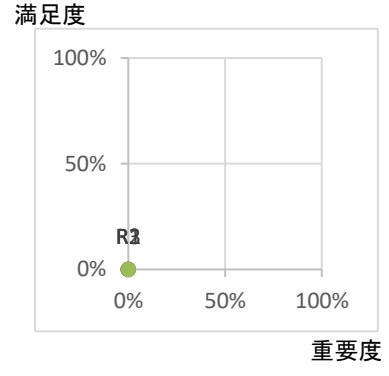
設問	1 「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度			
満足度	39.2%	54.0%	30.7%	41.0%	42.8%	そう思う(満足)	4.6%	
						どちらかといえば思う	38.2%	
			56.9%	75.9%	79.3%	どちらかといえば思わない	47.0%	
						そう思わない(不満)	8.2%	
重要度			61.7%	67.5%	66.3%	重要	11.9%	
						どちらかといえば重要	54.4%	
						重要ではない	29.9%	



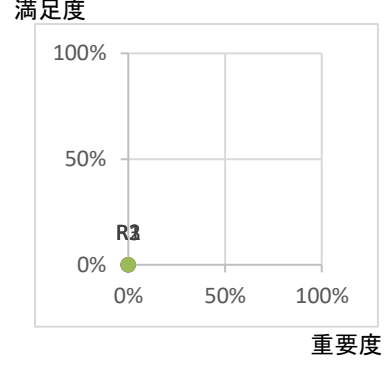
設問	2 「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度			
満足度	40.8%	56.0%	35.3%	48.0%	49.9%	そう思う(満足)	4.7%	
						どちらかといえば思う	45.2%	
			63.0%	85.7%	89.1%	どちらかといえば思わない	41.5%	
						そう思わない(不満)	6.5%	
重要度			65.4%	69.3%	67.4%	重要	12.7%	
						どちらかといえば重要	54.7%	
						重要ではない	28.9%	



設問	3 「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問	4 「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析 設問1・2ともに重要度に比べて満足度が低い状況となっている。市民には様々なニーズがあるため、それぞれが必要とする活動を提供する必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
文化活動として、多くの事業が中止となったが、地域文化や地域資源の発信に努め、文化に触れる機会を提供していく。また、文化会館アエルなどの施設が安全に利用できるよう整備計画により順次設備更新などによる長寿命化を実施していく。歴史や文化遺産の保護に努め、更なる市民周知を行っていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R3	政策	8 スポーツが盛んなまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	3	11	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度			
	政策事業費(予算)	105,235	81,971	112,389		政策費増減額		△ 23,264	30,418			
	政策費/全体費					比較		78%	137%			
	政策事業費(決算)	111,133	87,326			一般財源増減額		△ 1,161	9,004			
政策費/全体費					比較		98%	113%				
コスト分析と課題	新型コロナウイルス感染症の影響からイベントの中止などにより経費が減少している。しかし体育施設の老朽化などにより、設備の更新に係る経費が増加している。											

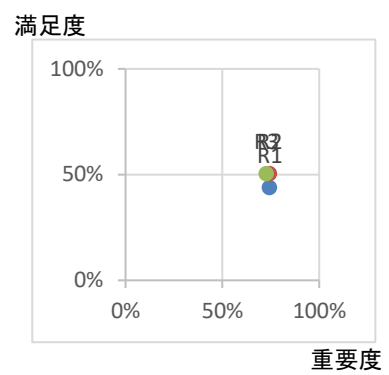
指標評価	総合計画										行政評価
	8 スポーツが盛んなまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合	%	54.0	59.0	43.8	50.4	50.4	56.8	88.8%	現未	C
	関連する施策										
	スポーツ施設年間利用者数	人	244,924	255,000	469,981	328,859	301,062	250,522	120.2%	S	A
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「誰もがスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合は昨年と同等の数値となったが、新型コロナウイルス感染症対策により市主催や体育協会主催など多くの事業が中止となり、スポーツ施設の利用者は昨年同様に激減している。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	拡充化○			
					コスト	成果	改善			
							縮減化△			
	1 誰もがスポーツに触れ合う機会を創出します	社会教育課	現未	B	維持	拡充	①			
	2 スポーツ活動の場を提供します	社会教育課	S	A	維持	維持	①			
	3 スポーツ団体・スポーツ活動を支援します	社会教育課	現未	A	維持	維持	①			

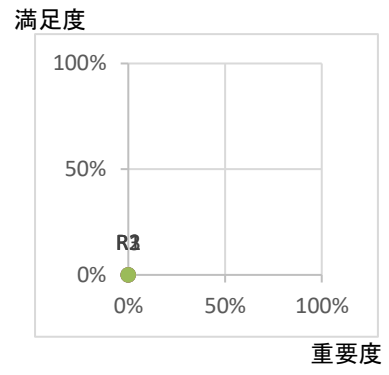
市民アンケート結果

総合評価

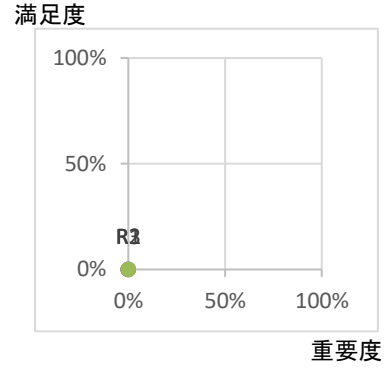
設問	1 「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	54.0%	59.0%	43.8%	50.4%	50.4%	そう思う(満足)	7.0%			
						どちらかといえば思う	43.4%			
						どちらかといえば思わない	40.6%			
						そう思わない(不満)	7.0%			
重要度			74.4%	74.4%	72.8%	重要	18.3%			
						どちらかといえば重要	54.5%			
						重要ではない	23.6%			



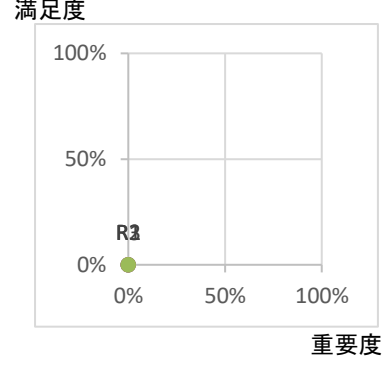
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 重要度が高いのに比べて満足度が低い状態となっている。様々なニーズに対応し、満足度を上げる必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
令和3年度は新型コロナウイルス感染症により市主催事業、体育協会主催事業など多くの大会やイベントが中止となった。令和4年度は対策を行いながらの開催方法を検討し事業を実施する。また、市民が安全・安心に施設が利用できるよう適正な維持、管理及び改修を行っていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R3	政策	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	2	5	8	15						
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)		372,285	326,796	313,651	政策費増減額			△ 45,489	△ 13,145		
	政策費/全体費					比較			88%	96%		
	政策事業費(決算)		401,916	315,943		一般財源増減額			△ 281,026	△ 8,642		
	政策費/全体費				比較			-37%	111%			
	コスト分析と課題	農業振興を図るための予算としては、地域特産物推進事業費補助金や水田高収益作物生産転作推進事業費補助金の活用者が増加しており、成果として表れている。市の施策は農業者のやる気を後押しするものであり、引き続き補助金等の支援は必要である。 事業費の多くは土地改良事業の予算であるが、農地集積等には基盤整備が欠かせない。また、ため池の耐震補強工事により、市民生活の安心・安全を守るため必要な予算である。										

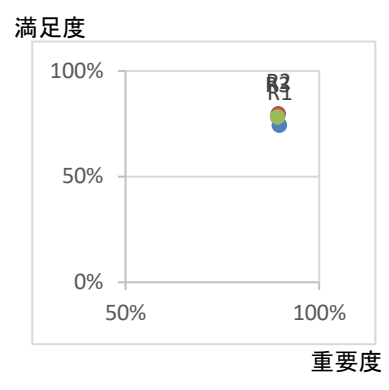
指標評価	総合計画										行政評価
	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合	%	78.0	83.0	74.3	79.7	78.1	80.8	96.7%	B	B
	関連する施策										
	地域特産作物の開発数	件	0	4	1	2	3	2	150.0%	A	S
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	経営基盤の強化を図るためにも高収益作物との複合経営を進めており、昨年度より0.8ha増加し順調に転換面積が増加している。地域特産物については、「オリーブ」の生産者が増え、「そら豆」の生産面積が増加した。引き続き次世代農業モデルを目指し各種事業を進めていく。									

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 菊川型農業モデルの創出を図ります	農林課	A		A	維持	維持	①		
	2 経営感覚に優れた担い手の確保と育成を図ります	農林課	S		A	維持	拡充	①		
	3 農業経営基盤の強化を促進します	農林課	A		A	維持	維持	①		
	4 農地の適正な管理と利用を促進します	農林課	S		A	維持	維持	①		
5 農業生産基盤の整備と維持管理を行います	農林課	B		A	維持	維持	①			

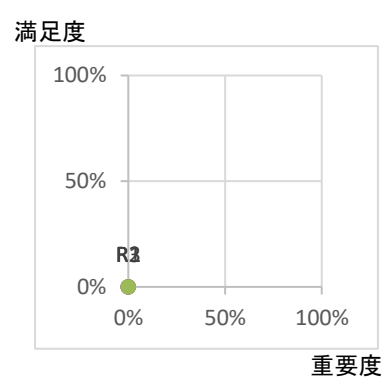
市民アンケート結果

総合評価

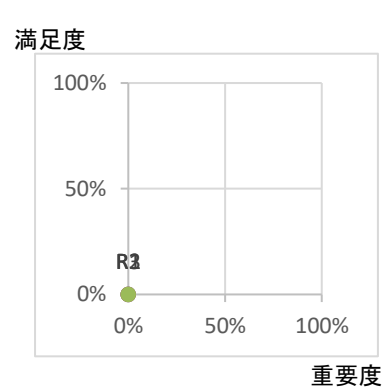
設問	1 「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	77.9%	83.0%	74.3%	79.7%	78.1%	そう思う(満足)		19.3%		
						どちらかといえば思う		58.8%		
						どちらかといえば思わない		17.3%		
						そう思わない(不満)		2.8%		
重要度			89.8%	89.5%	89.3%	重要		38.3%		
						どちらかといえば重要		51.0%		
						重要ではない		7.3%		



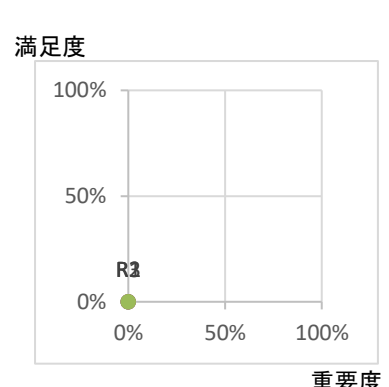
設問	1 「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	1 「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	1 「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 市民アンケート結果では昨年度以下となったが、現状値以上となった。市内には優れた農産物・生産者がたくさん存在するが、まだまだ市民へのPRが足りない。このため引き続き各種事業を推進するとともに情報発信にも力を入れ、市民意識を向上させていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
高齢化による後継者不足等農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。引き続き、経営基盤の強化や担い手の確保のためにも、各種事業を実施していく。また、農業委員会等と連携し、荒廃農地解消も進めていく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署
R3	政策	2 活力と魅力のある茶のまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	2	8						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)	505,064	21,601	32,262	政策費増減額		△ 483,463	10,661		
	政策費/全体費				比較		4%	149%		
	政策事業費(決算)	19,379	424,956		一般財源増減額		△ 489,954	409,040		
	政策費/全体費				比較		-392%	-5%		
	コスト分析と課題	菊川茶の生産基盤を維持していくためには、茶農家等への支援は大変重要である。支援の拡大も含め予算化していく必要がある。また、リーフ茶の需要を伸ばすためには消費拡大事業や茶文化の継承も重要であるため、引き続き現予算を確保する必要がある。								

指標評価	総合計画										行政評価
	2 活力と魅力のある茶のまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「茶の生産が盛んなまち」と思う市民の割合	%	82.7	88.0	79.3	77.0	73.6	85.6	85.9%	現未	C
	関連する施策										
	茶園管理組織経営体数	経営体	5	16	6	6	6	11	54.5%	C	D
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	新規に農地所有適格法人になった法人はなかった。各茶農協の運営や自園自製農家もさらに厳しくなることが予想されるため、生産・販売を含めた法人化の検討が必要である。									

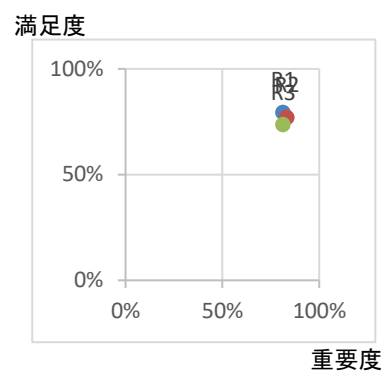
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R5年度拡充化○縮減化△	
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	
	1 活力ある茶業の振興を推進します	茶業振興課	C		A	維持	維持	①		
	2 茶の消費拡大を図ります	茶業振興課	C		B	維持	維持	①		
3 茶文化を継承します	茶業振興課	現未		A	維持	維持	②			

市民アンケート結果

総合評価

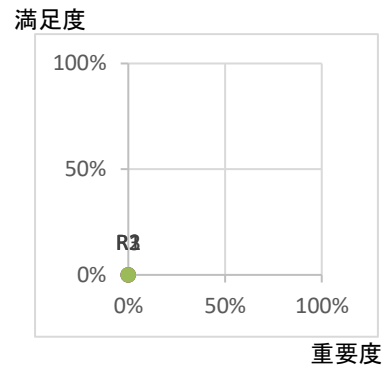
設問 1 「茶の生産が盛んなまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	82.7%	88.0%	79.3%	77.0%	73.6%	そう思う(満足)	29.9%
			90.1%	87.5%	83.6%	どちらかといえば思う	43.7%
						どちらかといえば思わない	20.5%
						そう思わない(不満)	4.8%
重要度			81.4%	83.3%	81.4%	重要	36.5%
						どちらかといえば重要	44.9%
						重要ではない	15.5%



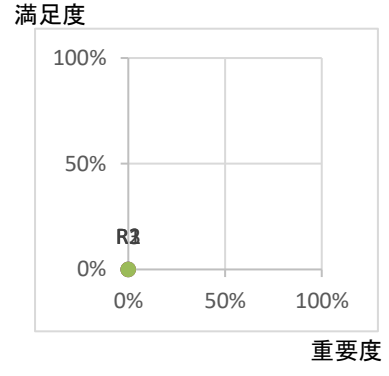
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



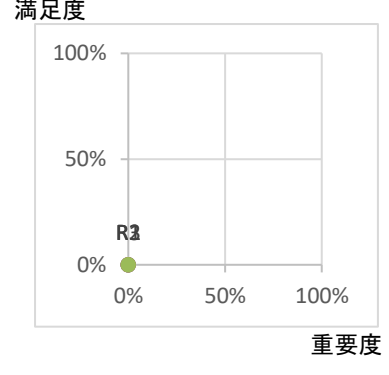
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、現状値未達であり、更に昨年度より下降した。茶業が厳しい現状に対して、市民も盛んではなくなっていると感じている結果である。茶経営体の強化とともに、消費拡大・販路拡大に向けさらにPRを行っていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
茶業関係者などとの協議を重ね、課題の洗い出しを行い、今後の茶業に関する対応策・支援策を整理していく。また、菊川市茶業振興計画の見直しにより、厳しい現状を見据えた実効性のある計画を策定し、茶業関係者全体で取り組んでいく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R3	政策	3 商工業が活気あるまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	4	5	8	9	10					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度				
	政策事業費(予算)	629,239	660,206	892,393	政策費増減額		30,967	232,187				
	政策費/全体費				比較		105%	135%				
	政策事業費(決算)	721,624	834,846		一般財源増減額		△ 96,439	307,858				
	政策費/全体費				比較		300%	-113%				
	コスト分析と課題	中小企業等の労働者福祉の増進、商工会が小規模事業者に行う経営改善普及事業等に対する補助、企業誘致に伴う助成など市内商工業者の操業を支援するためには必要な予算である。										

指標評価	総合計画										行政評価
	3 商工業が活気あるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
	「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合	%	60.9	71.0	60.5	68.2	67.0	66.5	100.7%	B	B
	関連する施策										
	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合	%	41.5	57.0	41.3	53.8	52.7	50.1	105.2%	B	B
	関連する施策										
	事業所数(二次産業・三次産業の計)	事業所	1,738	1,800	1,918	R3実施	未公表	-	-	-	-
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「事業所数」の指標については経済センサス調査の結果を実績値としており、令和元年実施の経済センサス基礎調査結果によると事業所数は現状値より増加している。リーマンショックの影響により減少していたが、高齢化に伴い老人福祉事業所や介護事業所が増加した。今のところ市内においてはコロナ禍の影響による事業所の減少は見られないが、今後は注視し、商工会等関係団体と連携し、支援策を考えていかなければいけない。										

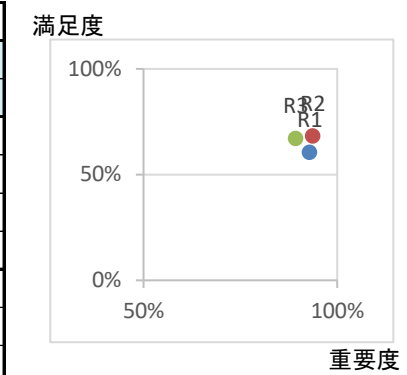
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度				
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 就労機会の拡大を図ります	商工観光課	S		A	維持	維持	③			
	2 がんばる事業者を応援します	商工観光課	現未		A	維持	維持	③			
3 市内企業の応援と進出企業の獲得に努めます	商工観光課	B		A	維持	維持	③				

市民アンケート結果

総合評価

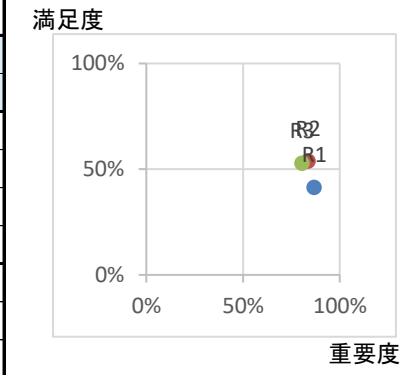
設問 1 「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	60.9%	71.0%	60.5%	68.2%	67.0%	そう思う(満足)	20.1%
						どちらかといえば思う	46.9%
			85.2%	96.1%	94.4%	どちらかといえば思わない	24.9%
						そう思わない(不満)	7.7%
重要度			92.9%	93.7%	89.3%	重要	44.5%
						どちらかといえば重要	44.8%
						重要ではない	7.9%



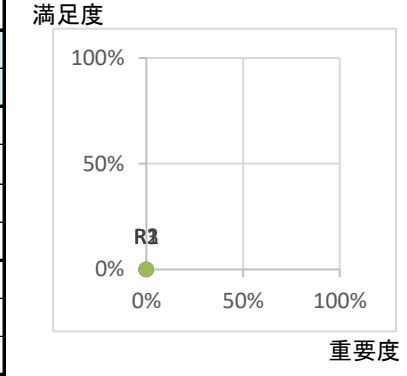
設問 2 「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	41.5%	57.0%	41.3%	53.8%	52.7%	そう思う(満足)	6.2%
						どちらかといえば思う	46.5%
			72.5%	94.4%	92.5%	どちらかといえば思わない	37.8%
						そう思わない(不満)	7.3%
重要度			86.8%	83.6%	80.6%	重要	27.9%
						どちらかといえば重要	52.7%
						重要ではない	15.6%



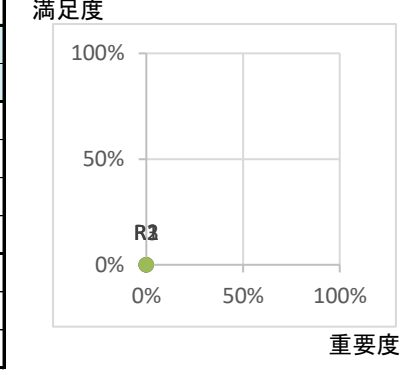
設問 3 「事業所数」の指標

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問 4 「事業所数」の指標

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1・2ともに現状値以上となったが、昨年度よりは下がった。民間開発等による商業施設や商店、住宅地の開発により利便性は向上していると考えられる。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
行政としても商工会との連携や企業誘致を進めていく必要がある。また、人口減少の抑制のためにもまちづくりを行っていく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R3	政策	4 人が訪れるまちづくり										建設経済部
	SDGsゴール	8	11	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度			
	政策事業費(予算)	32,863	38,454	55,799		政策費増減額		5,591	17,345			
	政策費/全体費					比較		117%	145%			
	政策事業費(決算)	44,907	44,214			一般財源増減額		728	9,224			
政策費/全体費					比較		103%	137%				
コスト分析と課題	本市の認知度向上、交流人口の拡大を推進する予算であり、さらに定住人口の増加や流出抑制を図るためには必要な予算である。											

指標評価	総合計画										行政評価
	4 人が訪れるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思ふ市民の割合	%	20.7	41.0	17.6	31.7	28.8	32.0	90.1%	B	B
	関連する施策										
	観光交流客数	人	364,388	400,000	343,097	326,838	195,102	384,172	50.8%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	コロナ禍の影響により集客力のあるイベントが開催されなかったため、観光交流客数は減少した。感染状況や国・県の動向を見ながら、実施する事業を検討していく。また、感染拡大防止対策もしっかりと考えていく必要がある。										

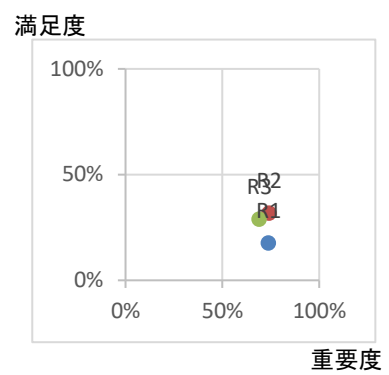
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	拡充化○			
					コスト	成果	改善			
							縮減化△			
1	市民力による魅力発信を支援します	商工観光課	B		A	維持	維持	①		
2	マスコットを活用した情報発信を行います	商工観光課	B		A	維持	維持	③		
3	広域市町と連携した交流人口の増加を図ります	商工観光課	現未		A	維持	維持	③		

市民アンケート結果

総合評価

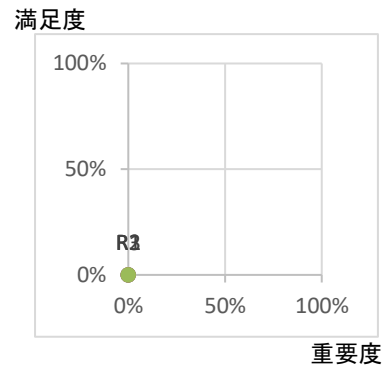
設問 1 「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	20.7%	41.0%	17.6%	31.7%	28.8%	そう思う(満足)	2.2%
						どちらかといえば思う	26.6%
			42.9%	77.3%	70.2%	どちらかといえば思わない	54.2%
						そう思わない(不満)	14.9%
重要度			73.8%	74.1%	69.1%	重要	16.9%
						どちらかといえば重要	52.2%
						重要ではない	27.4%



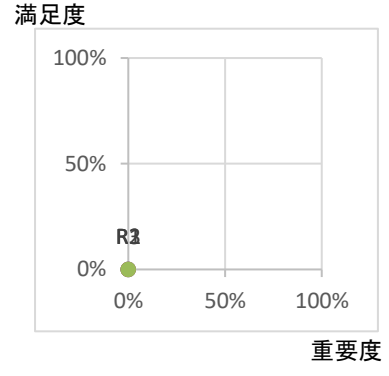
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



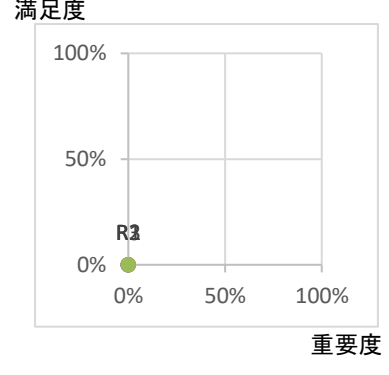
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、現状値以上となったが、昨年度よりは下がった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各種イベントや体験型観光ツアーが中止となった影響が多少はありと認識している。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
コロナ禍の影響により様々なイベント等が中止、縮小となっているが、ウィズコロナで知恵を出し、商工会や観光協会等関係団体と連携し、交流人口を増やしていく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署
R3	政策	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	16							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)	2,903	2,760	2,900	政策費増減額		△ 143	140		
	政策費/全体費				比較		95%	105%		
	政策事業費(決算)	2,700	3,357		一般財源増減額		△ 673	715		
	政策費/全体費				比較		55%	188%		
	コスト分析と課題	消費者被害を未然に防ぐための関係機関との連携強化、消費者トラブルの早期解決を図るためには必要な予算である。								

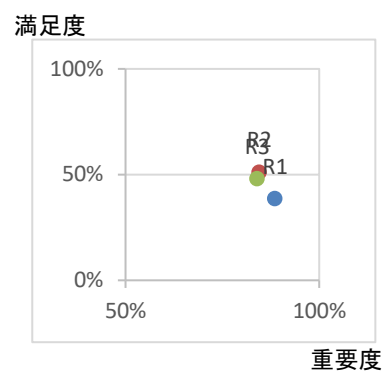
指標評価	総合計画										行政評価
	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思ふ市民の割合	%	45.3	60.0	38.6	51.1	48.0	53.5	89.8%	B	C
	関連する施策										
	消費生活センター相談件数	件	197	100	228	235	238	143	60.1%	現未	D
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	消費生活センター相談件数は増加したが、センターが機能している側面もある。引き続き、被害防止のための啓蒙活動と消費生活センターの周知を図り、消費者相談を受けていく。									

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	
	1 消費者被害の軽減に努めます	商工観光課	S		A	維持	維持	③		
2 消費生活センターの機能を強化し、消費者の保護に努めます	商工観光課	現未		A	維持	維持	③			

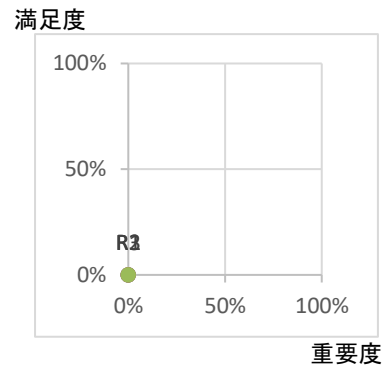
市民アンケート結果

総合評価

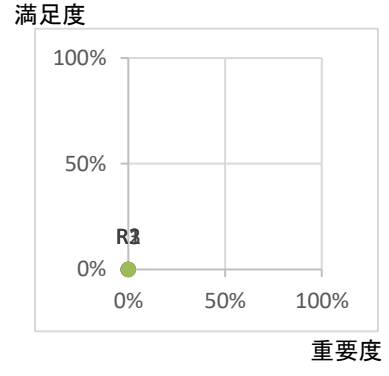
設問	1 「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	45.3%	60.0%	38.6%	51.1%	48.0%	そう思う(満足)	3.5%
						どちらかといえば思う	44.5%
			64.3%	85.2%	80.0%	どちらかといえば思わない	43.9%
						そう思わない(不満)	6.7%
重要度			88.6%	84.5%	84.0%	重要	33.3%
						どちらかといえば重要	50.7%
						重要ではない	12.8%



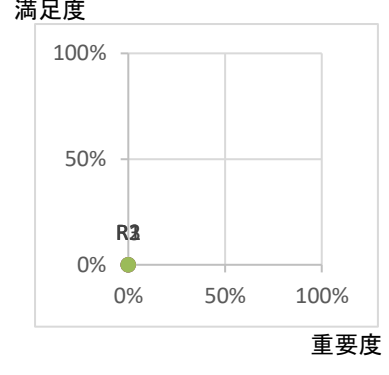
設問	2 「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	3 「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	4 「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、現状値以上となったが、昨年度よりは下がった。引き続き関係団体等の協力を得て、啓蒙活動を行ない未然防止を行っていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③
						政策内容
						悪徳商法や特殊詐欺が年々巧妙化している。コロナがらみの詐欺が広がっているため、引き続き啓蒙活動を行うとともに、消費生活センターへの相談を周知していく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R3	政策	1 防災力を高めるまちづくり										危機管理部
		SDGsゴール	11	13	17							
		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度			
コスト評価	政策事業費(予算)		233,312	245,492	254,484	政策費増減額			12,180	8,992		
	政策費/全体費					比較			105%	104%		
	政策事業費(決算)		214,335	215,528		一般財源増減額			△ 3,953	△ 15,500		
	政策費/全体費					比較			97%	88%		
コスト分析と課題		「防災力を高めるまちづくり」には、災害復旧費事業費も含まれており災害発生状況により事業費の増減がある。										

総合計画											行政評価
1 防災力を高めるまちづくり		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
「災害に備え防災対策が整っているまち」と思う市民の割合		%	50.4	60.0	45.3	52.8	54.2	55.7	97.2%	B	B
関連する施策											
「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」と思う市民の割合		%	68.1	78.0	64.4	63.9	68.3	73.6	92.8%	B	B
関連する施策											
住宅の耐震化率		%	84.2	95.0	87.9	93.7	94.1	90.2	104.3%	B	B
関連する施策											
地域防災訓練(12月)への参加者数		人	14,318	15,750	16,567	537	8,028	15,114	53.1%	現未	E
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題		地域防災訓練については、コロナ禍において規模縮小により訓練が実施され参加者も減っている。「共助」の充実を図るためには、コロナ禍であっても感染症対策を十分に行い工夫して訓練を実施して行く必要がある。									

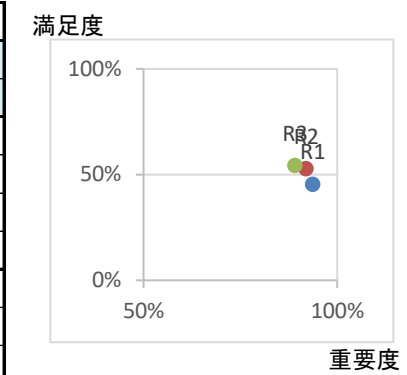
関連施策											
評価分析	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 災害に強いまちをつくります	都市計画課、建設課、危機管理課、警防課、健康づくり課	B		A	拡充	拡充	①			
	2 自主防災組織の体制及び連携強化を図ります	危機管理課	B		A	拡充	拡充	①			
	3 市民の防災意識の高揚を図ります	予防課、危機管理課	B		B	維持	維持	①			
	4 市民の防災活動への参加を推進します	危機管理課、消防署	現未		A	拡充	拡充	①			
5 避難情報の適切な伝達と避難体制の強化を図ります	危機管理課、環境推進課	S		A	拡充	拡充	①				

市民アンケート結果

総合評価

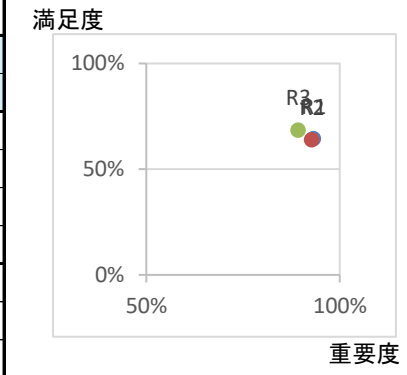
設問 1 「災害に備え防災対策が整っているまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	50.4%	60.0%	45.3%	52.8%	54.2%	そう思う(満足)	6.0%
						どちらかといえば思う	48.2%
重要度			75.5%	88.0%	90.3%	どちらかといえば思わない	36.1%
						そう思わない(不満)	8.3%
			93.7%	92.0%	89.1%	重要	54.9%
						どちらかといえば重要	34.2%
						重要ではない	7.7%



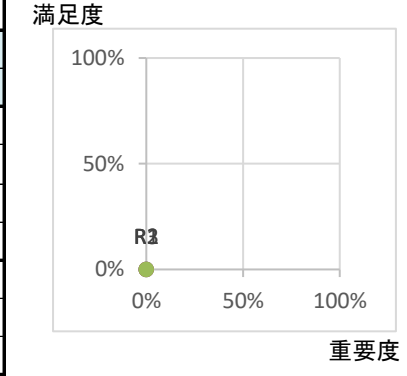
設問 2 「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	68.1%	78.0%	64.4%	63.9%	68.3%	そう思う(満足)	9.7%
						どちらかといえば思う	58.6%
重要度			82.6%	81.9%	87.6%	どちらかといえば思わない	26.7%
						そう思わない(不満)	3.8%
			93.2%	92.8%	89.3%	重要	46.9%
						どちらかといえば重要	42.4%
						重要ではない	7.8%



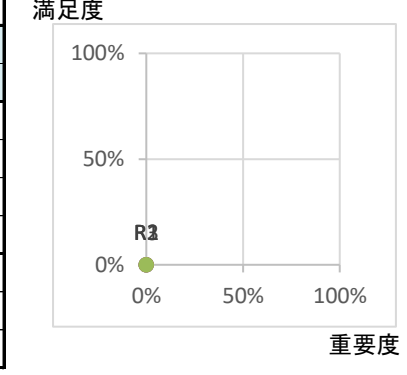
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 アンケート結果については、昨年度と比べ満足度は上昇しているが、目標値を達成するためにハード・ソフトの両面で取り組んでいく必要がある。

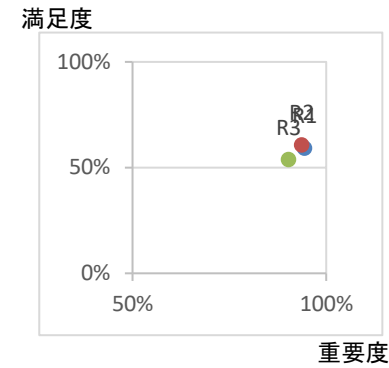
総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
政策として「防災力を高めるまちづくり」を進めるには「自助」として住宅の耐震化などによる自分の命は自分で守る。「共助」として地域による助け合い「公助」としてハード・ソフトによる防災力の強化が重要であるが、新型コロナウイルス感染症により防災訓練などが実施できていない状況にある。今後コロナ禍であっても、どうやって防災活動を行っていくか、地域の方や関係機関との連携を図る中で推進していく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R3	政策	2 交通事故・犯罪のないまちづくり										総務部
		SDGsゴール	3	13	16							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)		65,962	69,870	56,841	政策費増減額			3,908	△ 13,029		
	政策費/全体費					比較			106%	81%		
	政策事業費(決算)		66,305	72,871		一般財源増減額			△ 245	△ 12,941		
政策費/全体費					比較			100%	79%			
コスト分析と課題	『第2次菊川市総合計画』の基本目標4「快適な環境で安心して暮らせるまち」の実現に向け、交通事故や犯罪のないまちづくりに取り組んだ。 コストは、交通指導隊の改選に伴う経費の増等により、前年度比で増額となったが、『第11次菊川市交通安全計画』の策定や各種交通安全運動の展開、防犯灯設置工事など、予定していた事業を実施することができた。 今後も、菊川警察署や交通指導隊、防犯協会等、関係機関との連携を強化しながら、より安全で安心なまちづくりを進めていく。											
総合計画												行政評価
指標評価	2 交通事故・犯罪のないまちづくり											市民アンケート結果
		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
	「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合	%	55.8	66.0	59.1	60.6	53.7	61.5	87.4%	現未	C	
	関連する施策											
	「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	71.6	82.0	70.0	78.2	79.8	77.4	103.1%	B	B	
	関連する施策											
	交通事故年間発生件数	件	314	300	218	191	171	306	179.1%	S	S	
	関連する施策											
	刑法犯罪認知件数	件	234	200	123	106	130	215	165.5%	S	S	
関連する施策												
関連する施策												
関連する施策												
指標分析と課題	「交通事故の危険が少ないまち」は、前年度比マイナス6.9ポイントとなり、期待値と照らしても「現状値未達」となった。これは、昨年末の通学路に発生した事故の影響が、その一因であると考えられる。 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」は、前年度比プラス1.6ポイントとなり、目標値に向けて順調に推移している。これは、警察や防犯協会等、関係機関のご尽力に加え、振り込め詐欺に遭わないといった、市民の皆さまの防犯意識の高揚も一因であると考えられる。 「交通事故年間発生件数」・「刑法犯罪認知件数」とも、目標値を大きく下回り「S評価」となったが、1件でも事件・事故の発生を抑えていくため、不断の取り組みが求められる。											
関連施策												
評価分析	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度拡充化○縮減化△					
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性 コスト 成果 改善						
	1 交通事故を減らすため交通安全活動を推進します	地域支援課	現未	A	維持	維持	①					
	2 交通安全施設の整備を進めます	建設課	B	A	拡充	拡充	①	拡充化○				
3 犯罪のない明るい地域社会づくりを推進します	地域支援課	現未	A	維持	維持	①						

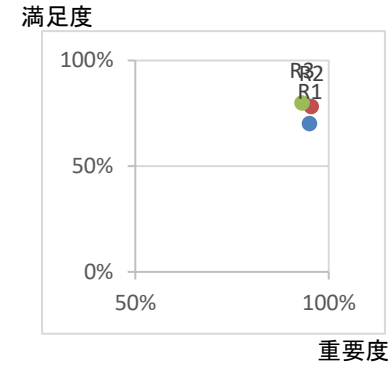
設問 1 「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度	55.9%	66.0%	59.1%	60.6%	53.7%	そう思う(満足)	5.4%
						どちらかといえば思う	48.3%
			89.5%	91.8%	81.4%	どちらかといえば思わない	36.4%
重要度			94.4%	93.7%	90.3%	重要	52.7%
						どちらかといえば重要	37.6%
						重要ではない	6.9%



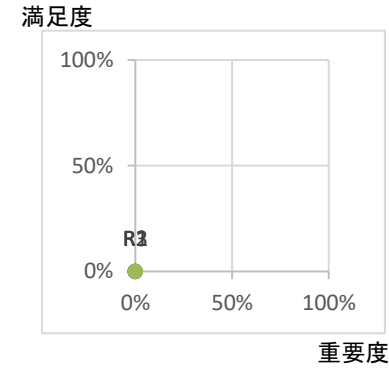
設問 2 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度	71.6%	82.0%	70.0%	78.2%	79.8%	そう思う(満足)	15.6%
						どちらかといえば思う	64.2%
			85.4%	95.4%	97.3%	どちらかといえば思わない	16.1%
重要度			95.1%	95.5%	93.1%	重要	59.1%
						どちらかといえば重要	34.0%
						重要ではない	3.6%



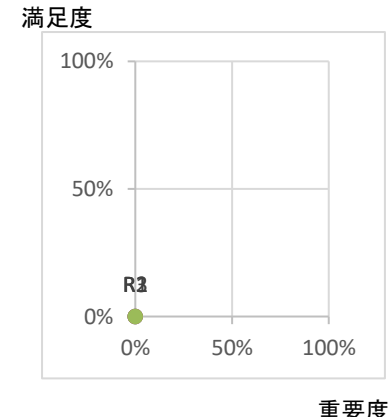
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

交通安全や防犯に対するの重要度は、市民の安心・安全な暮らしに直結するものだけに高く、9割を超える方が「重要」・「どちらかといえば重要」と答えている。
一方、満足度は十分な状況になく、特に「交通事故の危険が少ないまち」においては、53.7%に留まり、前年度を大きく下回る結果となった。これは昨年末、小学校の通学路で発生した事故の影響が、その一因であると考えられる。
今後は、ハード・ソフト両面から、一層の交通事故防止に取り組む必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	② 政策規模

総合評価

「交通事故や犯罪のないまちづくり」は、平穏な生活を営むうえで不可欠な要素であり、不断の取り組みが求められる。特に通学路における交通事故防止については、登下校指導の徹底を図るとともに、ドライバーに注意喚起を促す看板やグリーンベルトの設置、また、必要に応じた交通規制の実施など、学校・地域・警察等と連携するなか、安全対策を講じていく必要がある。
防犯については、毎年自治会からの多くのご要望をいただく防犯灯の設置を拡充し、地域における犯罪抑止の一助となる取り組みを進めていく。また、振り込め詐欺など、高齢者を狙った犯罪もより巧妙化しており、一層の注意喚起に努めていく。
今後、ウイズコロナ・アフターコロナ社会において、人の動きや経済活動が活発になっていくことが予想されるなか、交通事故や刑法犯罪のリスクが高まることも懸念される。ハード・ソフト両面の取り組みにより、事件・事故の発生を抑えていくため、関係機関と連携し、より一層の取り組みを進めていく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R3	政策	3 消防力を高めるまちづくり										消防本部
		SDGsゴール	11	13	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)		150,006	232,991	187,438	政策費増減額			82,985	△ 45,553		
	政策費/全体費					比較			155%	80%		
	政策事業費(決算)		140,551	222,388		一般財源増減額			4,488	△ 11,714		
	政策費/全体費				比較			105%	89%			
	コスト分析と課題	令和3年度は、整備から19年が経過した救助工作車及び積載資機材の更新や県の総合防災訓練に併せ、大規模災害に必要となる資機材を整備したため、政策費は令和2年度より約8千万円の増額となったが、合併特例債などを活用することで一般財源の増加額は約400万円に抑えることができた。 消防車等の緊急車両や資機材は、火災等の災害に対応するためには必要なものであるが、高額なものであるため、整備する車両や資機材の耐久性や機能性も含めた仕様について、十分検討したうえで整備していく必要がある。										
指標評価	総合計画										行政評価	
	3 消防力を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
	「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合	%	59.5	70.0	58.7	66.4	68.9	65.3	105.5%	B	B	
	関連する施策											
	消防団員の定数に対する充足率	%	87.6	95.0	86.8	84.1	83.5	91.7	91.0%	現未	B	
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
	指標分析と課題	災害現場活動の強化として取り組んでいる訓練や各種研修、派遣教育によって、技術、知識が身に付き、現場活動に活かされていること及び、火災予防等の広報活動が、市民に届いているものと捉えるが、今後も継続することで、更に消防力を高め、複雑化・大規模化する災害に備えなければならない。また、全国的に減少傾向にある消防団員数は、本市においても厳しい状況が続いているが、消防団は地域防災力の強化に必要不可欠な存在であることから、活動環境の整備とともに、地域や企業に理解や協力を求めていく必要がある。										
評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度				
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△	
	1 消防施設・設備・体制の充実強化を図ります	警防課、消防総務課、消防署	B		A	維持	維持	①				
2 消防技術の向上を目指します	消防総務課	B		A	維持	維持	①					
3 消防団の防災力の維持・向上を図ります	消防総務課	現未		A	拡充	維持	①					

市民アンケート結果

設問	1 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	59.5%	70.0%	58.7%	66.4%	68.9%	そう思う(満足)	9.0%	どちらかといえば思う	59.9%	
			83.9%	94.9%	98.4%	どちらかといえば思わない	26.7%	そう思わない(不満)	3.3%	
重要度			94.3%	93.5%	91.5%	重要	52.7%	どちらかといえば重要	38.8%	
						重要ではない	5.5%			

設問	2 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

設問	3 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

設問	4 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

結果分析	ハード面である車両や資機材の整備は基より、市民への広報活動や的確な災害現場活動等のソフト面が、着実に向上しているものと捉える。また、防災や救急等は、市民の安心・安全に直接的に関係することから求められるものも高いため、更なるレベル向上に努めなければならない。									
総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)			R5年度の方向性			コスト	成果	改善
							拡充↑	維持→	①	政策の進め方
総合評価	災害から市民を守るという使命の下に、各種訓練や研修、派遣教育等による職員の資質向上及び消防施設の維持管理や緊急車両等の整備、消防指令センターの共同運用によって消防力の強化を図り、常に万全な体制を保つことが大切である。また、地域防災の要として必要不可欠である消防団員の確保のために、活動環境について検討するとともに、地域や企業に対して理解や協力を求め、地域防災力の強化に繋げていかなければならない。									

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち												作成部署
R3	政策	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり												生活環境部
		SDGsゴール	3	6	7	8	11	12	13	14	15	17		
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度						
	政策事業費(予算)	1,071,721	1,089,193	1,125,984	政策費増減額		17,472	36,791						
	政策費/全体費				比較		102%	103%						
	政策事業費(決算)	1,081,661	1,078,365		一般財源増減額		14,144	32,791						
	政策費/全体費				比較		101%	103%						
	コスト分析と課題	衛生施設組合負担金が増加しており、循環型社会の推進を図る上で、今後、廃棄物処理施設の更新に伴う費用の増加が見込まれる。 環境施策について、財政負担軽減のほか、2050年カーボンニュートラルを目指す取組が必要である。												

指標評価	総合計画										行政評価
	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合	%	56.8	67.0	50.6	62.4	62.1	62.5	99.4%	B	B
	関連する施策										
	「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合	%	44.7	60.0	42.2	51.5	52.2	53.2	98.1%	B	B
	関連する施策										
	水質環境基準の達成状況(BOD値)菊川:高田橋(2.0mg/l以内)	mg/l	1.2	2.0	1.2	1.2	1.2	1.6	137.0%	S	S
	関連する施策										
	水質環境基準の達成状況(BOD値)牛淵川:堂山橋(3.0mg/l以内)	mg/l	2.3	3.0	2.5	2.4	2.9	2.7	92.7%	S	B
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	指標評価の指標1、指標2では、令和3年度の実績値は、期待値・目標値を下回る結果となった。 自然環境の保全に関しては、市民の関心も高く、公共下水道や合併浄化槽の普及への理解も促進され、河川環境は良好に保たれている。 課題としては、地球温暖化防止に向けて、環境政策の重要性が高まっており、脱炭素社会を推進するために、再生可能エネルギーの普及促進や、更なるリサイクルの推進が急務となっている。										

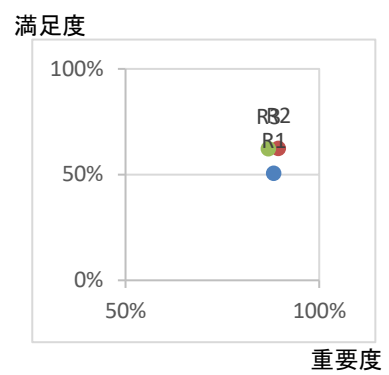
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 地球温暖化対策・自然環境の保全を推進します	環境推進課、農林課	B		A	拡充	拡充	①		
	2 水質浄化・生活環境の改善を進めます	下水道課、環境推進課	B		A	維持	維持	①		
3 循環型社会の推進を図ります	環境推進課	現未		A	維持	拡充	③	拡充化○		
4 適正な汚水処理施設の管理・運営を進めます	下水道課	B		A	維持	維持	①			

市民アンケート結果

総合評価

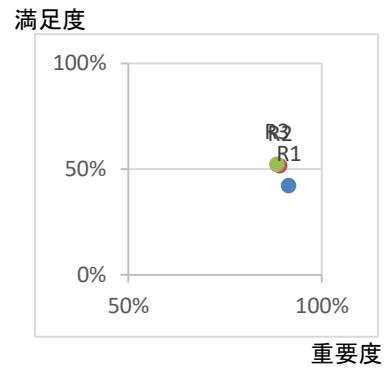
設問 1 「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	56.8%	67.0%	50.6%	62.4%	62.1%	そう思う(満足)	5.9%
						どちらかといえば思う	56.2%
			75.5%	93.1%	92.7%	どちらかといえば思わない	32.0%
						そう思わない(不満)	3.7%
重要度			88.3%	89.5%	86.9%	重要	30.7%
						どちらかといえば重要	56.2%
						重要ではない	9.3%



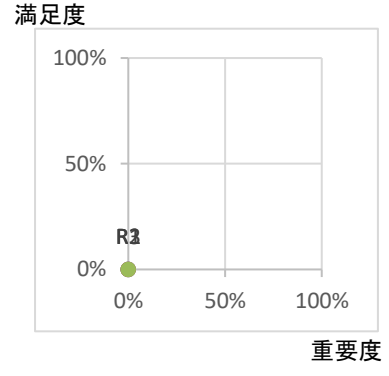
設問 2 「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	44.7%	60.0%	42.2%	51.5%	52.2%	そう思う(満足)	6.6%
						どちらかといえば思う	45.6%
			70.3%	85.8%	87.0%	どちらかといえば思わない	37.7%
						そう思わない(不満)	8.8%
重要度			91.5%	89.2%	88.4%	重要	40.5%
						どちらかといえば重要	47.9%
						重要ではない	8.4%



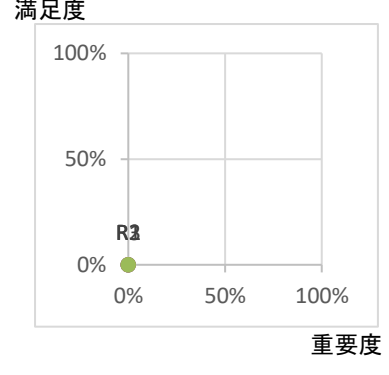
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1・2について、満足度は前年度比でそれぞれ微減、微増となっているが、重要度は前年度比でともに下降している。地球温暖化防止に向けた全世界的な取り組みが具体化し、地球環境の保全に関する市民の意識は非常に高まっており、脱炭素社会の実現に向けて、市の環境政策の重要度は増大していく傾向にある。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
「豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり」を進めるためには、自然環境の保全、菊川の水質保全、循環型社会の構築、地球温暖化対策の推進などの他、市全体において環境意識を高揚させていく取組が重要である。地球温暖化防止に向けた全世界的な取り組みは、二酸化炭素の排出抑制が喫緊の課題とされ、産業界においては化石燃料の消費削減を目標とした対策が講じられようとしている。市においても、水質浄化に加え、二酸化炭素の排出量を政策指標として掲げ、地球温暖化防止施策に注力する必要がある。また、プラスチック資源循環促進法に基づき、プラスチック資源循環を促進するよう努めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R3	政策	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	9	11	15							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度			
	政策事業費(予算)	913,137	804,378	757,608		政策費増減額		△ 108,759	△ 46,770			
	政策費/全体費					比較		88%	94%			
	政策事業費(決算)	931,687	836,284			一般財源増減額		67,400	△ 120,387			
	政策費/全体費				比較		120%	70%				
	コスト分析と課題	道路、橋梁、公園などのインフラ整備と維持管理は、交通の利便性向上や安全・安心、憩いの場の提供といった、市民生活には欠かせないものであり、市の魅力向上にもつながるため、引き続き魅力あるまちづくりに繋げていく必要がある。										

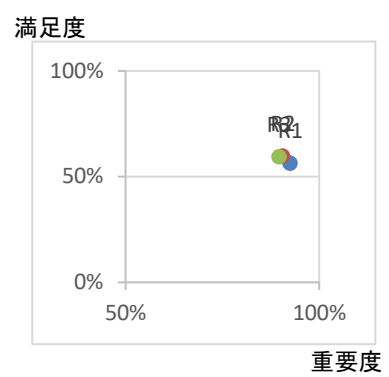
指標評価	総合計画										行政評価
	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合	%	59.4	64.0	56.3	59.6	59.3	62.0	95.7%	現未	B
	関連する施策										
	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合	%	43.5	59.0	38.4	42.5	43.1	52.1	82.7%	現未	C
	関連する施策										
	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合	%	56.6	62.0	56.5	62.5	59.0	59.6	99.0%	B	B
	関連する施策										
	都市計画道路の整備率	%	63.5	65.5	65.2	66.0	66.0	64.6	102.1%	S	B
関連する施策											
コミュニティバス1日当りの利用者数	人/日	124	145	133	113	120	136	88.5%	現未	C	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	青葉通り嶺田線や西方高橋線(掛浜バイパス)の2路線を進めている。広域的幹線道路としての役割が大きいので、早期完成を目指していく。新型コロナウイルスの影響もあり、コミュニティバスの1日当たりの利用者数は減少している。感染拡大防止を行い利用促進を図っていく。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R5年度		
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 良好な住環境をつくります	都市計画課	S		A	維持	維持	①		
	2 幹線道路や生活道路を整備します	都市計画課、建設課	S		A	拡充	拡充	①		拡充化○
	3 公園などの整備を進めます	都市計画課、農林課	B		A	維持	拡充	①		
	4 交通事業者と連携して交通手段の確保に努めます	地域支援課	S	S	A	維持	維持	①		
5 橋梁や道路施設を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	建設課	S		A	拡充	拡充	①		拡充化○	
6 市営住宅を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	都市計画課	A		A	拡充	維持	①			

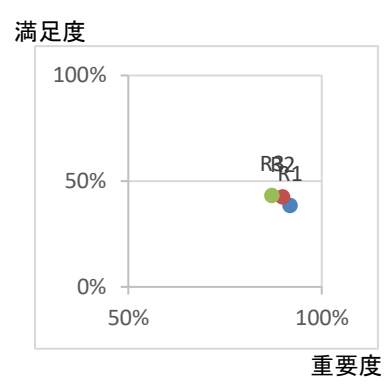
市民アンケート結果

総合評価

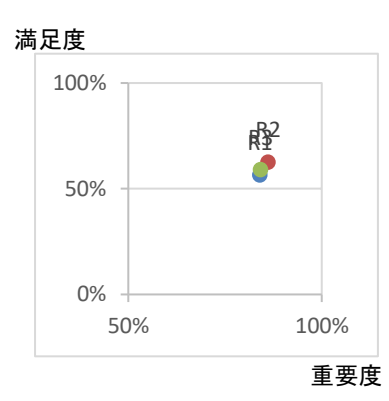
設問	1 「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	59.4%	64.0%	56.3%	59.6%	59.3%	そう思う(満足)	13.2%			
						どちらかといえば思う	46.1%			
			88.0%	93.1%	92.7%	どちらかといえば思わない	29.1%			
					そう思わない(不満)	10.5%				
重要度			92.5%	90.6%	89.7%	重要	41.2%			
						どちらかといえば重要	48.5%			
						重要ではない	7.5%			



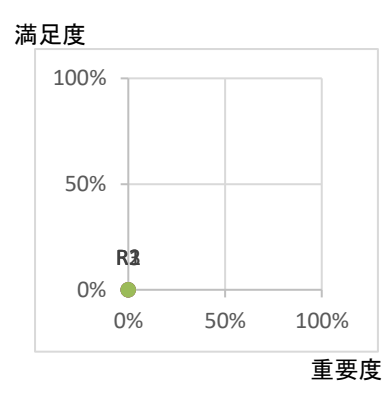
設問	2 「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	43.5%	59.0%	38.4%	42.5%	43.1%	そう思う(満足)	8.7%			
						どちらかといえば思う	34.4%			
			65.1%	72.0%	73.1%	どちらかといえば思わない	39.2%			
					そう思わない(不満)	16.8%				
重要度			91.8%	89.9%	87.2%	重要	39.4%			
						どちらかといえば重要	47.8%			
						重要ではない	10.1%			



設問	3 「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度	56.6%	62.0%	56.5%	62.5%	59.0%	そう思う(満足)	12.4%			
						どちらかといえば思う	46.6%			
			91.1%	100.8%	95.2%	どちらかといえば思わない	33.2%			
					そう思わない(不満)	6.8%				
重要度			84.0%	86.1%	84.2%	重要	27.5%			
						どちらかといえば重要	56.7%			
						重要ではない	12.9%			



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
					そう思わない(不満)					
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 市民アンケート結果については、設問1が現状値以下、昨年度以下となった。設問3については、現状値以上であるが、昨年度以下となった。引き続き、各項目とも上昇となるようインフラ整備を進めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
本市を選んでもらうためにも、良好な住環境や道路・公園の整備は重要である。ポテンシャルの高いインフラ整備を計画的に進め、人口減少の抑制に繋げていく必要がある。引き続き、本市を選んでもらい、住みよい菊川市を目指し、各事業を計画的に進めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち								作成部署
R3	政策	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり								生活環境部
		SDGsゴール	6							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	政策事業費(予算)		9,145	8,921	8,791	政策費増減額			△ 224	△ 130
	政策費/全体費					比較			98%	99%
	政策事業費(決算)		9,145	60,512		一般財源増減額			△ 51,724	51,370
	政策費/全体費				比較			-466%	-21%	
	コスト分析と課題	上水道事業は、水道事業会計において適正に処理されている。								

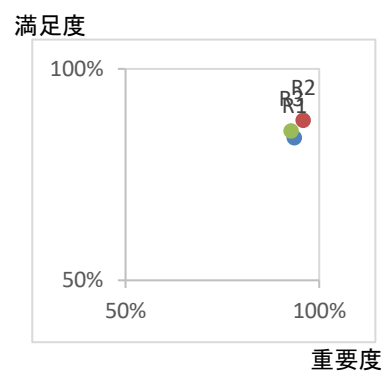
指標評価	総合計画										行政評価
	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合	%	83.0	88.0	83.7	87.8	85.3	85.8	99.4%	B	B
	関連する施策										
	上水道有収率	%	85.7	90.0	85.3	85.4	85.0	88.1	96.5%	現未	B
	関連する施策										
指標分析と課題	指標評価の指標1では、令和3年度の実績値は前年度比2.5ポイントの下降で、期待値・目標値をともに下回る結果となった。自己水源が乏しく、大井川の水を受水している現状を多くの市民が理解する中で、安定的に水道水を供給出来ていることから満足度は一定の水準を維持していると考えられる。課題としては、大切な水道水を無駄にしないよう、老朽管路の更新整備を計画的に進め、漏水防止と管路耐震化を促進させ、有収率を更に向上させる必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	
	1 安定した水資源の確保と総合的な水質管理体制の構築を図ります	水道課	B		A	維持	維持	①		
	2 管路の整備及び改良を進めます	水道課	B		A	維持	維持	①		
3 水道施設の管理及び整備を進めます	水道課	B		A	維持	維持	①			
4 安定財源の確保を図り、健全な事業経営を継続します	水道課、環境推進課、企画政策課	S		A	維持	維持	①			

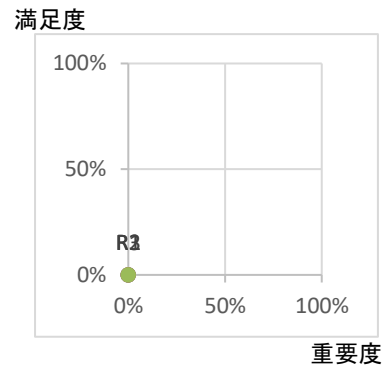
市民アンケート結果

総合評価

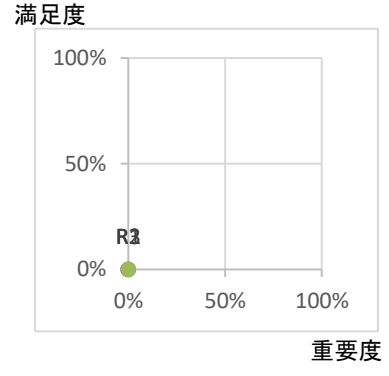
設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	83.0%	88.0%	83.7%	87.8%	85.3%	そう思う(満足)	27.9%
			95.1%	99.8%	96.9%	どちらかといえば思う	57.4%
						どちらかといえば思わない	10.6%
						そう思わない(不満)	3.3%
重要度			93.6%	95.9%	92.8%	重要	52.3%
						どちらかといえば重要	40.5%
						重要ではない	4.2%



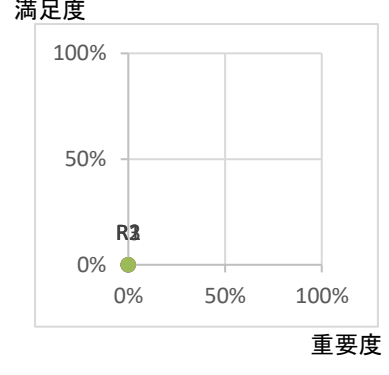
設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度、達成率ともに前年度から下降し、重要度も前年度から下降しているが、数値は高い水準で推移しており、リニア新幹線工事などによる「大井川の水への関心」が要因にあると考えられる。また、大井川広域水道企業団から安定的な受水を継続しており、市民の満足度も高い評価となっていると考えられる。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
「上水道が安全に安定して供給されるまちづくり」を進めるためには、水道料金収入をもって経営を行うことを基本としながら、安全安心な水道水を安定供給する役割を果たし、将来にわたり安定的に事業を継続していく必要がある。上水道企業会計として安定的な経営を継続し、今後も市民満足度に一定の評価を得られるよう、管路や配水設備の適切な維持管理に努めていく。人口減少に伴う水需要の減や、水道水供給施設の老朽化に伴う更新費用の増大など、直面する課題への対処方法の一つとして、関係市町等との間で広域的な連携を進める必要がある。						

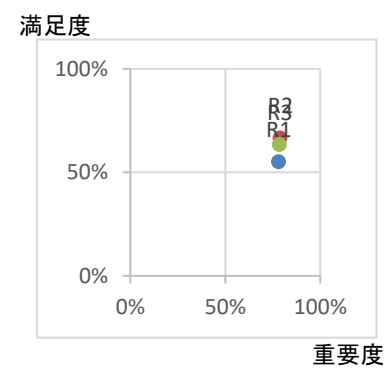
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署
R3	政策	1 市民と行政との協働によるまちづくり										総務部
		SDGsゴール	16	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度				
	政策事業費(予算)	217,113	189,515	182,755	政策費増減額		△ 27,598	△ 6,760				
	政策費/全体費				比較		87%	96%				
	政策事業費(決算)	206,921	176,687		一般財源増減額		14,541	3,336				
コスト分析と課題	第2次菊川市総合計画の基本目標5「まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち」の実現に向け、市民と行政との協働によるまちづくりに取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響により、1%地域づくり活動交付金の確定額が減となるなど、コミュニティ協議会や市民活動団体に対する支援コストは減少傾向となった。しかしながら、市民協働センターの中間支援は活発に行われ、年間相談件数が604件と過去最多となるなど、コロナ禍にあっても、地域コミュニティ・市民活動の活力を取り戻す取り組みが徐々に進んできていると考えられる。											

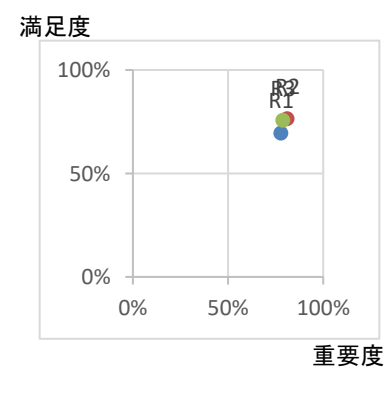
指標評価	総合計画										行政評価
	1 市民と行政との協働によるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合	%	59.4	69.0	55.0	66.5	63.3	64.7	97.8%	B	B
	関連する施策										
	「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の割合	%	72.3	82.0	69.4	76.3	75.6	77.7	97.3%	B	B
	関連する施策										
	市ホームページへのアクセス件数(年間)	件	290,335	315,000	538,838	731,392	812,847	304,038	267.4%	S	S
	市民協働センターへの団体登録数	団体	0	90	72	75	80	50	160.0%	A	S
指標分析と課題	「地域のコミュニティ活動が市のまちづくりに活かされているまち」・「広報誌・市ホームページ・出前行政講座を通して市の情報が発信されているまち」については、新型コロナウイルスにより、コミュニティ活動やイベントが中止されたことが、実績値を引き下げたと考えられる。「市ホームページへのアクセス件数」は、新型コロナウイルスに関する情報を随時掲載したことにより、大きく伸びたと考えられる。市民の皆さまに情報格差が生じないよう、伝達する媒体の多チャンネル化などに取り組んでいく。コロナ禍においても、「市民協働センターへの登録団体数」が増加したのは心強い点。市民協働センターと連携し、地域の活力を取り戻すための支援を行っていく。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	成果1	成果2	判定評価	R5の方向性		R5年度		
						コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 地域のために活動している市民や団体を支援します	地域支援課	S	A	維持	維持	①			
	2 まちづくりを進めるために市政情報を共有します	営業戦略課、地域支援課、企画政策課	S	A	拡充	拡充	①	拡充化○		
3 地域文化の交流を通して人のつながりを地域の活性化に活かします	地域支援課	現未	A	維持	維持	①				

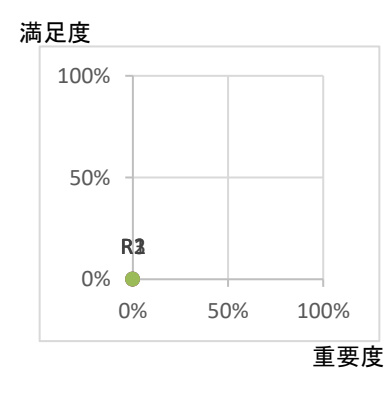
設問	1 「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度						
満足度	59.3%	69.0%	55.0%	66.5%	63.3%	そう思う(満足)	6.7%	どちらかといえば思う	56.6%	どちらかといえば思わない	30.4%
			79.7%	96.4%	91.7%	そう思わない(不満)	4.7%	重要	16.5%	どちらかといえば重要	62.1%
重要度			78.1%	78.9%	78.6%	重要ではない	17.9%				



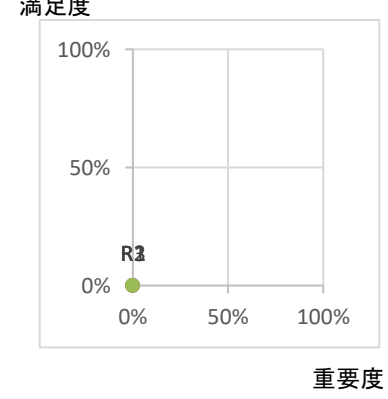
設問	2 「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の割合										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度						
満足度	72.3%	82.0%	69.4%	76.3%	75.6%	そう思う(満足)	16.8%	どちらかといえば思う	58.8%	どちらかといえば思わない	19.6%
			84.6%	93.0%	92.2%	そう思わない(不満)	3.1%	重要	21.5%	どちらかといえば重要	57.3%
重要度			77.8%	81.2%	78.8%	重要ではない	17.6%				



設問	3 「地域のコミュニティ活動が市のまちづくりに活かされているまち」・「広報誌・市ホームページ・出前行政講座を通して市の情報が発信されているまち」については、新型コロナウイルスにより、コミュニティ活動やイベントが中止されたことが、実績値を引き下げたと考えられる。										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度						
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)		重要		どちらかといえば重要	
重要度						重要ではない					



設問	4 「地域のコミュニティ活動が市のまちづくりに活かされているまち」・「広報誌・市ホームページ・出前行政講座を通して市の情報が発信されているまち」については、新型コロナウイルスにより、コミュニティ活動やイベントが中止されたことが、実績値を引き下げたと考えられる。										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度						
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)		重要		どちらかといえば重要	
重要度						重要ではない					



結果分析 「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」は、満足度・重要度ともに若干減少した。新型コロナウイルス感染症の影響もあろうが、地域のコミュニティ活動が中止や縮小されることに慣れ、重要度が低下していくことが懸念される。「広報誌・市ホームページ・出前行政講座などを通して市の情報が発信されているまち」についても、満足度・重要度ともに若干減少した。コロナ禍においては、特にホームページやSNSによる即時性の高い情報発信が求められる。一方で、高齢者の方など、デジタル化した情報に触れにくい方々に対する発信方法も検証・検討していく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	③ 政策内容
<p>新型コロナウイルス感染症は、本市が進めてきた「地域コミュニティを核としたまちづくり」・「市民協働のまちづくり」の歩みに大きな影響を及ぼした。特に地域活動においては、祭典や納涼祭、地区センター祭りなど、これまで当たり前に行ってきた活動が中止・縮小され、地域の「顔の見える関係」が希薄化することが危惧されている。災害時における「共助」や、平時における「見守り」などを考えても、日頃から地域の結びつきを高め、新しい生活様式を取り入れながら、持続可能な地域活動・市民活動が展開されるよう、市民協働センターとも連携するなか、行政としてもサポートをしていく。</p> <p>自治会は行政の大切なパートナーであり、その協力無くして、まちづくりは進められない。そうしたなか、自治会長を始めとした役員の方々の負担軽減が叫ばれている。連合自治会とも協議し、配布文書の削減や行事への出役依頼の削減に一層取り組んでいく。</p> <p>市民に届く情報発信、菊川市の魅力が伝わる情報発信が求められる。これまでも広報紙の充実やホームページのリニューアルを行うとともに、SNSを活用した即時性の高い情報発信にも取り組んできた。令和4年度からは、新たに「営業戦略課」を設置するとともに、営業戦略アドバイザーを委嘱し、新たな発想による「菊川市の売り込み」にもチャレンジしていく。</p>						

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち								作成部署	
R3	政策	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり								企画財政部	
	SDGsゴール	11	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度			
	政策事業費(予算)		1,368	6,073	10,463	政策費増減額		4,705	4,390		
	政策費/全体費					比較		444%	172%		
	政策事業費(決算)		193	4,752		一般財源増減額		△ 755	3,976		
	政策費/全体費				比較		40%	890%			
コスト分析と課題	数年に一度の移住定住小冊子と関連するホームページのリニューアル、首都圏からの移住者に対する補助金の初めて支出や結婚に伴う経済的支援を行う新たな補助金制度の創設に伴い事業費は増加しているが、県市町村振興協会や国の交付金を活用して事業を実施している。補助金制度には市の負担もあるが、人口減少対策は重要課題であり、今後も国の交付金を活用し、実施していく。										

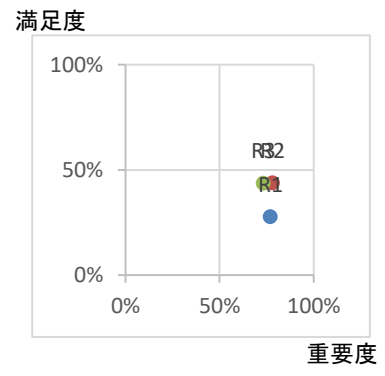
指標評価	総合計画										行政評価
	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思ふ市民の割合	%	31.1	46.0	27.7	43.7	43.5	39.4	110.5%	B	A
	関連する施策										
	「菊川市に行ったことがある」「菊川市を知っている」と回答した人の割合	%	63.8	90.0	62.4	-	-	-	-	-	-
	関連する施策										
新聞(静岡・中日)への掲載件数(年間)	件	380	410	406	510	442	397	111.3%	S	A	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	市の魅力発信については令和2年度からSNSによる情報発信ツールを増やすとともに、まちの話題などの発信回数も増加していることから、市民の満足度の向上につながっていると解する。新聞への掲載件数については令和2年度より減ったものの、コロナ禍前、イベント開催などが多かった令和元年度よりも増加している。行政情報をこまめに提供したことが掲載件数の増につながったと考えており、今後も注目度が高く、メディアが求める新鮮な情報の掘り起こし、提供に努める必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度			
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	拡充化○ 縮減化△			
					コスト	成果	改善			
	1 知名度向上に向けて情報を発信します	営業戦略課	B		A	拡充	拡充	①	拡充化○	
	2 移住・定住に関する情報を積極的に発信します	営業戦略課、企画政策課	S		B	維持	拡充	①	拡充化○	

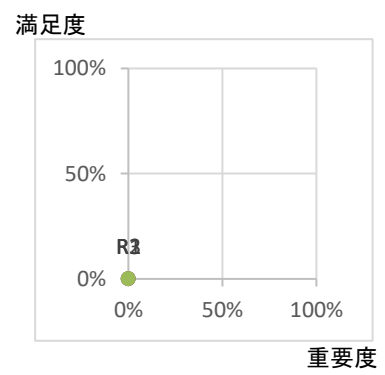
市民アンケート結果

総合評価

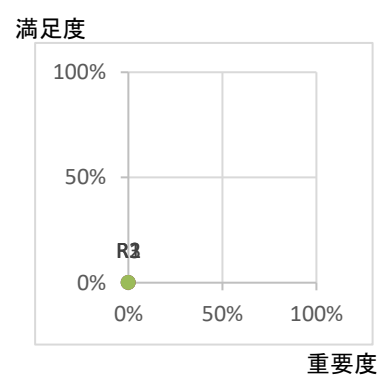
設問	1 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	31.0%	46.0%	27.7%	43.7%	43.5%	そう思う(満足)	4.4%
						どちらかといえば思う	39.1%
			60.2%	95.0%	94.6%	どちらかといえば思わない	45.5%
						そう思わない(不満)	9.7%
重要度			77.0%	78.1%	73.2%	重要	20.0%
						どちらかといえば重要	53.2%
						重要ではない	23.2%



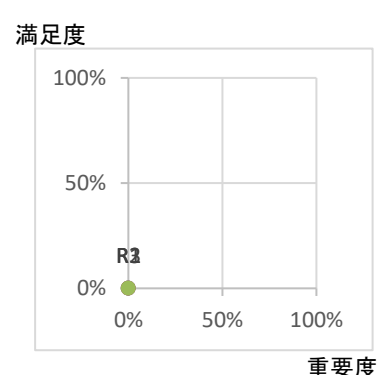
設問	1 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 重要度は令和2年度から4.9ポイント下がり73.2%となったが、満足度は令和元年度から上昇しているものの依然として乖離がある。自らが住むまちの認知度向上、シビックプライドを醸成するために市の魅力のPRが重要だと思ふことや、日々の話題の発信・提供を求めている市民が多いと考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
まちの元気・魅力の発信が重要だと思われているなかで、令和4年度は営業戦略アドバイザーとの連携によるマーケティング、プロモーションの強化や地域の魅力訴求コンテンツ調査や「茶畑の中心で愛を叫ぶ」イベントの実施が予定されるなど拡充されている。これらの実施状況、効果を考え、令和5年度以降の魅力の発信、移住・定住の推進につなげていく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署			
R3	政策	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり										総務部			
		SDGsゴール	5	10	16	17									
コスト評価	事業費と割合(千円)											予算額比較(千円)			
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度					
	政策事業費(予算)		12,367	9,965	11,254	政策費増減額			△ 2,402	1,289					
	政策費/全体費					比較			81%	113%					
	政策事業費(決算)		10,057	8,946		一般財源増減額			△ 1,275	△ 499					
政策費/全体費					比較			86%	93%						
コスト分析と課題	第2次菊川市総合計画の基本目標5「まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち」の実現に向け、性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくりに取り組んだ。本年度は「第4次男女共同参画プラン」及び「第4次多文化共生推進行動指針」の策定に要する経費が増加したため、前年度比でコストは増加したが、第3次プランの進捗管理を含め、予定していた事業を完了することができた。男女共同参画・多文化共生とも、市民の皆さまの意識を醸成するためのコストが必要となるが、より訴求対象に届く啓発が必要である。														

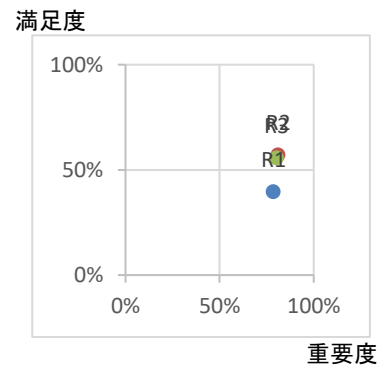
指標評価	総合計画											行政評価
	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度			
	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」だと思ふ市民の割合	%	48.6	64.0	39.5	57.1	55.6	57.2	97.3%	B	B	
	関連する施策											
	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合	%	57.1	67.0	57.3	64.7	64.7	62.6	103.4%	B	B	
	関連する施策											
	市協議会、委員会などの女性登用率	%	26.5	33.3	27.0	26.4	27.4	30.3	90.5%	B	B	
	関連する施策											
	多文化共生サポーター数	人	0	10	17	21	21	6	350.0%	S	S	
関連する施策												
指標分析と課題	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」は、期待値に対する達成率が97.3%に留まり、やや伸び悩んでいる。「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」は、達成度が100%を超え、順調に推移している。また、市協議会、委員会などへの女性登用率は27.4%となり、若干の伸びは示しているものの、分野によっては依然として0%の委員会等もあり、より広範な分野で女性の視点を生かす取り組みが求められる。多文化共生サポーター数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度同数に留まった。											

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度				
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	拡充化○				
					コスト	成果	改善				
							縮減化△				
	1 男女が平等な立場で参画できる社会づくりに取り組みます	地域支援課	B		A	維持	維持	①			
	2 外国人が暮らしやすい環境を整備します	地域支援課	S		A	維持	維持	①			
	3 人権擁護活動を推進します	市民課	A		A	維持	維持	①			

市民アンケート結果

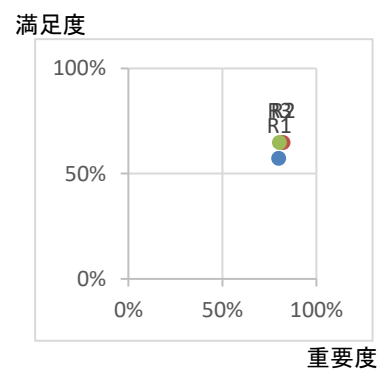
設問 1 「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	48.5%	64.0%	39.5%	57.1%	55.6%	そう思う(満足)	4.3%
						どちらかといえば思う	51.3%
			61.7%	89.2%	86.9%	どちらかといえば思わない	35.8%
						そう思わない(不満)	6.6%
重要度			78.6%	81.1%	80.2%	重要	20.3%
						どちらかといえば重要	59.9%
						重要ではない	16.0%



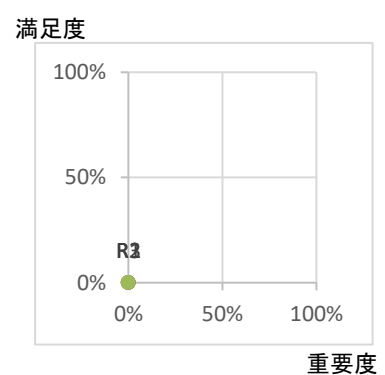
設問 2 「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	57.1%	67.0%	57.3%	64.7%	64.7%	そう思う(満足)	7.9%
						どちらかといえば思う	56.8%
			85.5%	96.6%	96.6%	どちらかといえば思わない	27.7%
						そう思わない(不満)	5.2%
重要度			80.1%	82.3%	80.4%	重要	23.2%
						どちらかといえば重要	57.2%
						重要ではない	15.7%



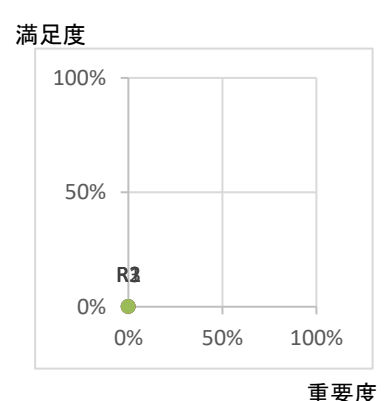
設問 3 「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」は、期待値に対する達成率が97.3%に留まり、やや伸び悩んでいる。

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問 4 「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」は、達成度が100%を超え、順調に推移している。

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1・2ともに重要度が80%を超え、多くの方がその重要性を認識されている。一方で、満足度はそれぞれ55.6%・64.7%と決して高くない状況にあり、市民の皆さまの意識を醸成する施策と併せて、より実感していただける施策を展開していく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
<p>男女共同参画については、アンコンシャス・バイアス=「固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定概念・無意識の思い込み」を低減させていくことが、これまでも大きな課題であり、男女共同参画社会の実現に向けたポイントとなっている。また、LGBTQやリプロダクティブ・ヘルス/ライツ=「性と生殖に関する健康と権利」といった、比較的新しい言葉・考え方に対する理解を深める必要性についても「第4次男女共同参画プラン」に掲げられ、若年層への働きかけの重要性が謳われている。今後は、SDGsの視点も踏まえ、「第4次男女共同参画プラン」に掲げた施策を着実に推進していく。</p> <p>市の人口における外国人比率は、リーマンショックにより一次大きく減少し、近年は新型コロナウイルス感染症による影響はあるものの、7.5%前後で推移しており、依然として県下市町トップの比率となっている。令和2年度に実施した外国人住民の方へのアンケートでは、「菊川市は住みやすい」と答えた方が76.4%で、5年前と比べ、12.3ポイント上昇している。これまで取り組んできた施策が一定の成果につながったとともに、市民の多文化共生に対する意識が醸成されてきたことが大きな要因であると考えられる。今後は、「第4次多文化共生推進行動指針」に基づき、コミュニケーション支援や生活支援、多文化共生の地域づくりなどに取り組んでいく。</p>						

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署
R3	政策	4 未来に向かって行政機能を高めるまちづくり										企画財政部
		SDGsゴール	8	10	11	16	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	政策事業費(予算)		565,796	547,378	600,047	政策費増減額			△ 18,418	52,669		
	政策費/全体費					比較			97%	110%		
	政策事業費(決算)		549,776	502,771		一般財源増減額			20,324	36,706		
	政策費/全体費				比較			104%	108%			
コスト分析と課題		令和3年度は、事業費全体としては前年度に比べ減っている。これはICT事業費や市税還付金が減っているのが主な要因である。しかし今後は、デジタル技術の活用による市民の利便性向上や業務の効率化を図るためのICT施策関連事業費の増加が見込まれる。										

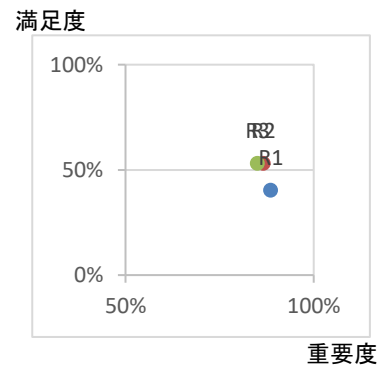
指標評価	総合計画										行政評価
	4 未来に向かって行政機能を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度		
	「効率的・効果的な行政運営が行われているまち」と思う市民の割合	%	42.7	58.0	40.3	53.0	53.0	51.2	103.5%	B	B
	関連する施策										
	将来負担比率	%	49.3	40.0	8.8	9.9	未公表	44.1	-	-	-
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「効率的・効果的な行政運営が行われているまち」と思う市民の割合が、前年度同様53.0%となり、令和3年度期待値51.2%を1.8ポイント上回ることができた。市民の皆さまが「効率的・効果的」と感じる視点は一緒ではないと思われるが、本市が進めるまちづくりや財政状況等をわかりやすく伝えることが必要となるため、広報紙やホームページ、SNSのさらなる活用をしていく。 将来負担比率は、令和2年度は9.9%であり、令和3年度はこれから算定するが期待値44.1%を下回る見込みであるとともに、早期健全化比率である350%を大きく下回っており、財政状況は「健全」とされる範囲内にある。										

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R5年度				
			成果1	成果2	判定評価	R5の方向性	コスト	成果	改善	拡大化○	縮減化△
	1 市役所の組織力を高めます	総務課	S		A	拡充	拡充	①			
	2 ICT(情報通信技術)を活用し効率的な行政運営をします	企画政策課	S		A	拡充	拡充	①			
	3 健全で安定した行政運営を構築します	財政課、企画政策課、小笠市民課、税務課	現未		A	拡充	拡充	①			
4 新公共経営と共創による行政運営を推進します	財政課	現未		A	拡充	拡充	①				
5 他市町との広域連携を推進します	企画政策課	C		A	維持	維持	①				

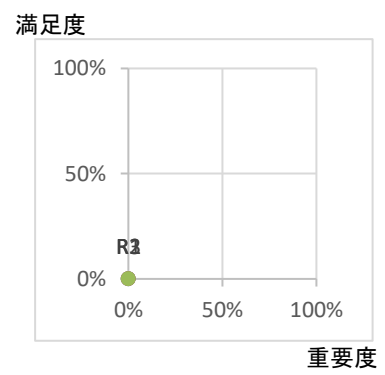
市民アンケート結果

総合評価

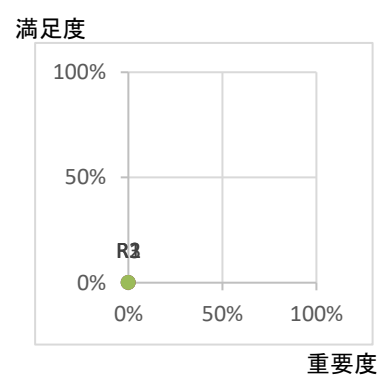
設問	1 「効率的・効果的な行政運営が行われているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度	42.7%	58.0%	40.3%	53.0%	53.0%	そう思う(満足)	3.2%
						どちらかといえば思う	49.8%
			69.5%	91.4%	91.4%	どちらかといえば思わない	35.5%
重要度						そう思わない(不満)	9.0%
			88.6%	86.6%	85.1%	重要	36.6%
						どちらかといえば重要	48.5%
						重要ではない	10.8%



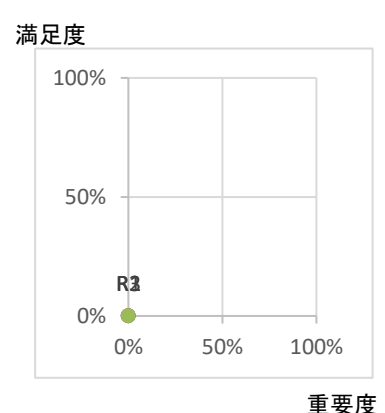
設問	1 「効率的・効果的な行政運営が行われているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「効率的・効果的な行政運営が行われているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「効率的・効果的な行政運営が行われているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R1年度	R2年度	R3年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度53.0%は、上昇した令和2年度と同数値で目標値58.0%に対する達成度も91.4%となった。しかし、満足度53.0%という数値は、絶対値としては決して高い数値ではない。また、重要度は85.1%だが、将来の少子高齢・人口減少社会を見据えれば、ICTの活用、行政改革、民間活力の活用などによる効率的・効果的な行政運営を進めていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R5年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
<p>「未来に向かって行政機能を高めるまちづくり」を進めるためには、職員ひとり一人の生産性を高めるとともに、職員が常にコスト意識を持ち、行政経営の視点に立って業務にあたることが求められる。令和2年度決算分から活用が始まった政策・施策・事業単位でPDCAサイクルを回す「行政経営システム」により、効率的・効果的な行政運営を進めていく必要がある。</p> <p>また、限られた職員で効率よく業務を進めるためには、AIやRPAの活用などICT化をさらに深めた「自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進」も不可欠となる。ICT化・デジタル化には相応のコストが必要となるが、それが働き方改革(テレワークの推進や時間外勤務の削減、休暇取得の促進等)につながり、市役所の組織力向上や経常経費の削減につながっていくことが求められる。</p>						